

市ヶ谷ボランティアセンターについて

2019年度 市ヶ谷ボランティアセンター活動の概要	6
2019年度 市ヶ谷ボランティアセンター運営委員会	8
2019年度 市ヶ谷ボランティアセンター来室者数集計	9
2019年度 市ヶ谷ボランティアセンターイベントカレンダー	10
2019年度 市ヶ谷ボランティアセンター活動の報告	16

市ヶ谷ボランティアセンター活動の概要

1. 活動目的と活動目標

■活動目的：本学学部生のボランティア活動の促進

■活動目標（2019年度）

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| (1) 東京 2020 に関する講座の実施 | (5) 学内イベントの継続的实施と見直しの実施 |
| (2) 近隣の施設と連携した新規プログラムの実施 | (6) 学生スタッフの育成 |
| (3) 震災復興支援ボランティアの取り組みの継続 | (7) キャンパスボランティアセンターの連携 |
| (4) 基幹プロジェクトの継続的实施と見直しの実施 | |

2. プログラム数及び学生参加人数

2019年度活動の総プログラム数は142（中止含む）、総数学生参加者数は1656人となった。昨年に引き続きプログラム数は120を超え充実したが年間を通して充実した活動ができたといえる。

3. 2019年度活動の報告

(1) 東京 2020 に関する講座の実施

東京 2020 組織委員会の要請をうけ、ボランティアセンターでは2018年度に続き「ユニバーサルマナーについて学ぼう～多様性の時代に～」 「それぞれの色で輝ける社会、考えてみませんか？（性的マイノリティについて考える）」などの東京2020応援プログラムを29プログラム企画し、学内の東京2020大会の気運の醸成に貢献した。

(2) 近隣の大学・施設と連携した新規プログラムの実施

- 「千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム」に働きかけを行い「富士山外来植物駆除ボランティアツアー」や「避難所体験」などの企画に参加してもらった。
- 神田すずらん商店街振興組合が主催する「神田すずらん祭り」にポッチャの体験コーナーと防災クイズカルタを出展した。また荒川区社会福祉協議会が主催する「荒川区サントクロースプロジェクト」にも本学学生が主要メンバーとして加わり企画がらプログラムに参加した。その他「神保町ブックフェスティバル」「わんぱくこどもまつり」などにも協力をした。

(3) 震災復興支援・防災啓発活動への取り組みの継続

- 被災地ボランティア、被災地スタディツアーの継続実施
ボランティアセンター学生スタッフが主体となり「福島スタディツアー」「東北被災地ボランティアツアー」を継続的に実施し、一般学生の被災地に対する理解を深め風化防止に貢献することができた。
- 学外での防災啓発活動
チーム・オレンジオリジナルの防災クイズカルタを使い「防災ゲームDAY」や「未来の防災リーダー」などの学外のイベントで防災啓発活動を行った。
- 学内での被災地支援・防災啓発活動の実施
被災地に売り上げの一部を募金できるオリジナルグッズの制作・販売を行った。また「法政フェア」では被災地に足を向けてもらうために魅力を発信するパネルを展示した。また、本年度初めて大学での宿泊訓練である「防災キャンプ」も実施した。

(4) 基幹プロジェクトの継続的实施と見直しの実施

- 東京メトロ飯田橋駅ボランティアの実施

2018年度に引き続き、東京メトロと連携し大学周辺にある飯田橋駅の安全性の向上と「見守る目」の強化のため、本学学生が介助を必要とする駅利用者へのお声かけ、道案内などのボランティアを実施した。ボランティア活動を行うにあたり研修を受け、学生たちの都合のよい時間に各々が飯田橋駅を訪ね、ボランティア活動を実施した。また毎月1回、活動後に定例会を行った。また、今年度は東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフによる企画「目の不自由な方のサポートについて学ぼう」や外国人に対しても案内できるよう「ASK・ME」の腕章の作成など駅ボランティアに関係する企画も精力的に行った。

●継続実施活動

キャンパス周辺清掃、九段・靖国清掃や富士山でのボランティア活動などの継続ボランティア活動は引き続き今年度も実施した。また、エコキャンプの回収活動に関しても回収BOXを新調し、配置場所を見直して継続的に活動を行っている。また、パラスポーツの普及活動もポッチャをはじめゴールボール、車いすラグビーなどを引き続き実施を行った。

(5) 学内イベントの継続的实施と見直しの実施

学生の発案で新規企画「食べ物を探してみよう～フードドライブ（大学祭）」「それぞれの色で輝ける社会、考えてみませんか？（性的マイノリティについて考える）」「高齢者と音楽を通じて楽しく交流しよう」「日本に暮らす外国人のサポートについて学ぼう」「外濠の浚渫工事について知り環境問題改善について学ぶ」等の新しい視点を取り入れた企画を実施、学内に提供することができた。

(6) 学生スタッフの育成

●学生スタッフ研修の継続実施

8月及び12月にピアネット研修会を行い学生スタッフが参加した。

●学生イベントの企画・運営支援

学生スタッフが毎週開催するミーティング（VSP、チーム・オレンジ）への参加や、各プロジェクトごとの打ち合わせに職員が同席、学生企画の進捗状況を確認し、必要に応じて企画の促進やアドバイス、相談等を行った。

(7) キャンパスボランティアセンターの連携

全学ボランティアセンター運営委員会を2020年3月に実施し、各キャンパスの活動報告を行った。また他大学と連携として六大学連絡協議会を7月に中央大学で行った。

4. その他（2019年度活動の特徴）

●今年度は自然災害など（台風15、19号、新型コロナウイルス）による企画の中止などが相次いで発生した。一部企画は日程を変更して実施することができたが、富士山トレイル整備ボランティアツアーや岩手・宮城被災地スタディツアーなど中止となった企画も9つあった。

●2019年度12月より「災害等復興支援ボランティア活動に伴う交通費助成金」の制度が新たに設立され2019年度に関しては10名の学生が本制度を利用した。

●本年度は、「Oluolu 発達障がい児サッカー教室」「北区まなび場 Let's study（外国にルーツを持つ児童の学習援助）」「バイタルプロジェクト（子供食堂）」などの外部団体のボランティア活動への参加が活発になった。また、これらのボランティア活動を通して、外部団体と協力した「バイタルプロジェクトで廃油石鹸づくり」企画や活動から問題提起をした学内イベント「日本に暮らす外国人のサポートについて学ぼう」等も実施することができた。

●市ヶ谷キャンパスにおいては各団体内の相互協力による新入生向けの「ボランティア説明会」や大学祭での「フードドライブ」、中止にはなったがVSP主催のベイラー大学との合同ボランティア活動で他団体が一部協力を行う等「団体内の横のつながり」が確立されてきたといえる。

2019年度 市ヶ谷ボランティアセンター運営委員会

回数	日程	議 題
第1回	4月25日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：共通（助成金の採択について、フェアウェルDay、ボランティア説明会、春のボランティア WEEK、その他）：VSP（バイラー大学との合同ボランティアツアー、エコキャップDEキャンパスツアー、資源のムダについて考えよう、その他）：チーム・オレンジ（災害ボランティア図上訓練、子ども達と防災を楽しく学ぶ、岩手・宮城スタディツアーについて、その他）：ボラセン関連（メトロボランティア活動報告会、春の「まちのわ」）今後の予定。
第2回	5月24日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：共通（神田すずらんまつり、4団体合同ミーティング、新入生の入会状況について）：VSP（資源のムダについて考えよう、エコキャップの業者引き渡し、子ども食堂ボランティア、富士山外来植物駆除ボランティア、犬から教わる幸せ・ドッグセラピー、移民企画、ユニバーサルマナー、発達障害企画、ゴールボール体験会、その他）：チーム・オレンジ（遠野ボランティアツアーの打合せ、グリーンツーリズムによる被災地の地域コミュニティの形成促進、避難所体験、防災ゲーム Day、ファシリテーション講座、その他）：ボラセン関連（インクルーシブデザインワークショップ、OluOluの参加者募集について、東京メトロ活動について）今後の予定。
第3回	6月28日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：共通（神田すずらんまつり、4団体合同ミーティング）：VSP（犬から教わる幸せ・ドッグセラピー、OluOlu ボランティア、荒川区道遊びボランティア、ユニバーサルマナー、自閉症スペクトラム障がいについて、ゴールボール体験教室、高齢者と音楽を通じて交流しよう、富士山清掃・トレイル整備ボランティア、その他）：チーム・オレンジ（被災地で働くを考える、避難所体験、防災ゲーム Day、ファシリテーション講座、防災リーダー、東北被災地ボランティアツアー、法政フェア、防災キャンプの進捗、その他）：ボラセン関連（ブラインドサッカー、外国人おもてなしボランティア、東京メトロ飯田橋駅ボランティア研修会、災害救援ボランティア講座、ピアネット研修会、6大学ボランティア連絡会議、総長との座談会）今後の予定。
第4回	7月29日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：共通（ピアネット研修会、4団体ミーティングについて）：VSP（OluOlu ボランティア、ゴールボール体験教室、CKS 夏祭りポッチャ体験、キャンエココロポ・フードバンク、3キャンパス清掃ツアー、高齢者と音楽を通じて交流しよう、荒川区の縁日イベント、高円寺子ども食堂、ユニバーサルシアター、MIW まつり、外濠浚渫工事、お寺での清掃&座禅（中止）、富士山清掃・トレイル整備（中止）、車いすラグビー企画、その他）：チーム・オレンジ（避難所体験、防災ゲーム Day、ファシリテーション講座、防災リーダー、東北被災地ボランティアツアー、法政フェア、防災キャンプ、その他）：ボラセン関連（災害救援ボランティア講座、6大学ボランティア連絡会議、日本盲人会連合の三宅氏と飯田橋駅構内を歩いてみよう、総長との座談会）今後の予定。
第5回	9月27日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：共通（各団体の交代について）：VSP（キャンエココロポ・フードバンクについて、浚渫工事見学会、3キャンパス清掃ツアー、高齢者と音楽を通じて交流しよう、荒川区の縁日イベント、OluOlu ボランティア、高円寺子ども食堂、ユニバーサルシアター、MIW まつり、外濠の浚渫工事について知り環境問題について学ぶ、お寺の清掃と坐禅、富士山清掃・トレイル整備、車いすラグビー、大学祭期間中のポッチャ、その他）：チーム・オレンジ（防災リーダー、気仙沼児童館でのボランティア、東北被災地ボランティアツアー、法政フェア、防災キャンプ、HU 共同企画（グッズ販売）、福島スタディツアー、その他）：ボラセン関連（日本盲人会連合の三宅氏と飯田橋駅構内を歩いてみよう、総長との座談会、手話講座について、エコキャップ回収 BOX の交換について）今後の予定。
第6回	10月27日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：共通（各団体の交代について）：VSP（ユニバーサルシアター、MIW まつり、外濠の浚渫工事を知り環境問題について学ぶ、車いすラグビー、わんぱくこどもまつりボランティア、北とびあで行う移民の子供への学習ボランティア、大学祭期間中のポッチャ体験、キャンエココロポ・フードバンク、性的マイノリティについて考える、移民に関する講義、荒川区クリスマスボランティア、お寺での清掃と坐禅、富士山清掃・トレイル整備、OluOlu ボランティア、田町校舎での活動、その他）：チーム・オレンジ（防災キャンプ、HU 共同企画（グッズ販売）、日中友好事業での中国学生向けプレゼン、教職員対象の防災訓練、福島スタディツアー、その他）：ボラセン関連（日本盲人会連合三宅氏と飯田橋駅構内を歩いてみよう（中止）、総長との座談会、手話講座、ピアネット研修、台風15、19号助成金関連）、今後の予定。
第7回	11月22日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：共通（各団体の交代について）：VSP（わんぱくこどもまつりボランティア、北とびあで行う移民の子供への学習ボランティア、大学祭期間中のポッチャ体験、キャンエココロポ・フードバンク、性的マイノリティについて考える、移民に関する講義、お寺での清掃と坐禅、バイタルプロジェクトと行う廃油石鹸づくり、荒川区クリスマスボランティア、子ども食堂で行うクリスマスボランティア、バイラー大学との合同ボランティア、その他）：チーム・オレンジ（防災キャンプ、HU 共同企画（グッズ販売）、日中友好事業での中国学生向けプレゼン、教職員対象の防災訓練、福島スタディツアー、その他）、今後の予定。
第8回	12月20日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：共通（ピアネット研修について、ガイダンス期間に行われる説明会及び宣伝について）：VSP（移民に関する講義企画、お寺での清掃と坐禅、バイタルプロジェクトと行う廃油石鹸づくり、荒川区クリスマスボランティア、子ども食堂で行うクリスマスボランティア、バイラー大学との合同ボランティア、富士山トレイル整備ボランティアツアー、その他）：チーム・オレンジ（HU 共同企画（グッズ販売）、日中友好事業での学生向けプレゼン、教職員対象の防災訓練について、福島スタディツアー、気仙沼児童館ボランティア、岩手・宮城被災地スタディツアー、アートフェスティバル、その他）：ボラセン関連（手話講座、日本視覚障害者団体連合三宅氏による講演、台風19号に伴うボランティア活動について、東京メトロ飯田橋駅ボランティア活動報告会について、その他）：今後の予定。

【付記】

- 運営委員会は市ヶ谷ボランティアセンター内にて開催。
- ボランティア依頼審査は、審査基準（2011年4月作成・一部2019年改定）に照らし合わせて判断。

2019年度 市ヶ谷ボランティアセンター来室者数集計

	来室者総数（人）	学生（人）	その他（人）	相談数（件）※	開室日数（日）
4月	359	348	11	72	20
5月	313	307	6	47	21
6月	259	252	7	53	21
7月	242	233	9	56	21
8月	82	76	6	6	16
9月	169	161	8	28	21
10月	393	372	21	84	23
11月	347	327	20	61	20
12月	200	190	10	47	19
1月	166	162	4	32	17
2月	86	78	8	12	15
3月	54	51	3	9	21
合計	2,670	2,557	113	507	235

※相談数は来室し教職員に何らかの助言を受けた人をカウント

2019年度 市ヶ谷ボランティアセンター イベントカレンダー

実施日	イベント・講座・訪問先	団体名、講師、協力先
4月6日(土)	ボランティア説明会	VSP、チーム・オレンジ、キャンエコ、東京メトロ飯田橋駅ボランティア 各スタッフ
4月8日(月)～12日(金)	春のボランティア WEEK	学生6ボランティアサークル (VSP、チーム・オレンジを含む)
4月10日(水)	公益財団法人キリン福祉財団「キリン・福祉のちから開拓事業」助成金表彰式	公益財団法人 キリン福祉財団、チーム・オレンジ代表者
4月13日(土)～5月31日(金)の期間8回	[東京2020応援] 東京メトロ飯田橋駅ボランティアの活動見学会	東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
4月15日(月)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
4月16日(火)	エコキャップ DE キャンパスツアー	VSP
4月19日(金)	九段靖国神社周辺清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
4月23日(火)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
4月24日(水)	[東京2020応援] 東京メトロ飯田橋駅ボランティア定例会	東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
4月27日(土)	資源のムダについて考えよう リサイクルペーパーのゆくえと環境保護	VSP
5月14日(火)	オリンピックの映像わたしたちが作ります (OBS)	オリンピック放送機構 (OBS)、本学学生
5月15日(水)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
5月17日(金)	[東京2020応援] インクルーシブデザインワークショップ	インクルーシブデザイン・ソリューションズ
5月18日(土)	高円寺子ども食堂ボランティア	高円寺子ども食堂、VSP
5月19日(日)	<電通育英会助成事業> (千代田区コンソーシアム協力・三大学連携協定) [東京2020応援] 富士山外来植物駆除ボランティアツアー	富士山クラブ、VSP
5月20日(月)	九段靖国神社周辺清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
5月23日(木)	エコキャップ回収ボランティア	VSP
5月24日(金)	[東京2020応援] 東京メトロ飯田橋駅ボランティア定例会	東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
5月25日(土)	第32回神田すずらん祭りボランティア	神田すずらん通り商店街振興組合、神田すずらんまつり実行委員会、VSP、チーム・オレンジ
5月26日(日)	川口市の日本語ボランティア見学	川口市、VSP
5月27日(月)	[東京2020応援] 犬から教わる幸せ～ドッグセラピーの可能性を知ろう～	NPO 法人セラピードッグすまいるわん、VSP
5月28日(火)	4団体合同ミーティング (説明会の反省会)	VSP、チーム・オレンジ、キャンエコ、東京メトロ飯田橋駅ボランティア 各スタッフ
5月30日(木)	[東京2020応援] ブラインドサッカーから学ぶチームビルディング	日本ブラインドサッカー協会、VSP
6月1日(土)	<東京都・法政大学ボランティアセンター共同実施> 外国人おもてなしボランティア講座	東京都
6月2日(日)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	OluOlu、品川区特別支援学校体育館、VSP
6月5日(水)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
6月8日(土)	荒川区道あそびボランティア	荒川区社会福祉協議会、VSP
6月8日(土)	[東京2020応援] 東京メトロ飯田橋駅ボランティア研修会①	東京メトロ、日本ケアフィット共育機構
6月10日(月)	[東京2020応援] ユニバーサルマナーについて学ぼう～多様性の時代に～	株式会社ミライロ、VSP
6月15日(土)	[東京2020応援] 東京メトロ飯田橋駅ボランティア研修会②	東京メトロ、日本ケアフィット共育機構
6月15日(土)、22日(土)、29日(土)	災害救援ボランティア講座 (千代田区助成事業)	災害救援ボランティア推進委員会
6月19日(水)	[東京2020応援] 自閉症スペクトラム障がいについて考えよう	特定非営利活動法人 ADDS 加藤愛理氏、VSP
6月20日(木)	エコキャップ回収ボランティア	VSP
6月20日(木)	九段靖国神社周辺清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
6月24日(月)	[東京2020応援] 被災地で働くを考える～仕事として被災地を支え、地域を作るとは～	遠野・山・里暮らしネットワーク、チーム・オレンジ卒業生、チーム・オレンジ
6月25日(火)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
6月25日(火)	4団体合同ミーティング①	VSP、チーム・オレンジ、キャンエコ、メトロボランティア 各スタッフ
6月28日(金)	[東京2020応援] 東京メトロ飯田橋駅ボランティア定例会	東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
6月29日(土)	ピアネット研修会	ピアネット所属の団体
6月30日(日)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	OluOlu、品川区特別支援学校体育館、VSP
7月2日(火)	[東京2020応援] 頭で考えるな、身体で感じる。ゴールボール体験教室	ゴールボール日本代表主将 信澤用秀氏、国際審判員 小野和人氏、VSP
7月6日(土)	(コンソーシアム協力) [東京2020応援] いざという時、あなたならどうしますか。避難所体験	チーム・オレンジ
7月7日(日)	防災ゲーム Day	防災教育普及協会、災害救援ボランティア推進委員会、チーム・オレンジ
7月8日(月)	主体性を育む ファシリテーション講座	鈴木まり子氏、チーム・オレンジ
7月9日(火)	エコキャップ回収ボランティア	VSP
7月10日(水)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
7月15日(月)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	OluOlu、品川区特別支援学校体育館、VSP
7月19日(金)	九段靖国神社周辺清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
7月24日(水)	[東京2020応援] 東京メトロ飯田橋駅ボランティア定例会	東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
7月28日(日)	北区学び場 Let's study	北区学び場 Let's study、VSP
8月3日(土)	千代田区未来の防災リーダー	千代田区 政策経営部 災害対策・危機管理課、チーム・オレンジ
8月5日(月)～7日(水)	フードバンク	VSP、キャンパスエコロジーフォーラム
8月6日(火)～8日(木)	<キリン福祉財団助成事業> 東北被災地支援ボランティアツアー下見 (チーム・オレンジ)	チーム・オレンジ遠野班
8月6日(火)～8日(木)	気仙沼児童館ボランティア (チーム・オレンジ)	チーム・オレンジ
8月7日(水)	第10回外濠市民塾「外濠浸漕工事見学会」	エコ地域デザイン研究センター協力、外濠市民塾実行委員会主催、VSP
8月8日(木)	「夏」の大清掃、3キャンパス清掃	VSP
8月9日(金)	<キリン福祉財団助成事業> 東北被災地ボランティアツアー事前説明会	チーム・オレンジ
8月19日(月)～23日(金)	<キリン福祉財団助成事業> 東北被災地ボランティアツアー (38、39次隊)	遠野・山・里ネットワーク、チーム・オレンジ

概要	場所	学生参加者数	(内) 留学生数
ボランティア4団体の合同説明会	富士見ゲートG502 教室	100	—
学内ボランティアサークルの新入生勧誘（活動紹介&説明会）	外濠校舎 1階メディアラウンジ	50	—
平成31年度キリン・地域のちから応援事業助成金贈呈式	中央区 キリン日本橋ビル	1	0
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の見学会	東京メトロ飯田橋駅構内	34	3
VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動	外濠周辺	16	1
新入生とVSPメンバーでエコキャップを回収しながら、新入生に大学構内案内をする	外濠校舎、富士見坂校舎	12	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	靖国通り周辺、九段商店街	6	0
VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動	外濠周辺	9	0
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会（月1回）	外濠校舎 102 会議室	4	0
過剰な新歓ピラに関する学生の自主企画（2019年度10,000枚回収）	斉藤英次商店 柏沼南営業所（柏市）	6	0
オリンピック放送機構による活動紹介とサポートスタッフ募集説明会	BT26 階スカイホール	119	—
VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動	外濠周辺	14	0
プロセスの上流から巻き込むデザイン手法（インクルーシブデザイン）について学ぶ	外濠校舎 526 会議室	17	2
子ども食堂でのボランティア	高円寺子ども食堂（杉並区）	4	0
富士山麓に生息する侵略的外来種（植物）などの駆除作業と、樹海のトレッキング活動、コウモリ穴見学	富士山麓	38	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	靖国通り周辺、九段商店街	雨天中止	
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎	13	0
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会（月1回）	東京メトロ飯田橋駅	6	0
地域貢献ボランティア活動、神田すずらんまつりでパラリンピック正式種目ボッチャについての紹介、防災クイズカルタの紹介	千代田区神田すずらん通り	29	0
日本語を母語としない子ども達の学習支援、居場所づくり（見学）	川口市	3	0
セラピードッグについての講義と触れ合い体験、アニマルセラピーを学ぶ	外濠校舎 526 会議室	29	4
4団体合同説明会の反省会	外濠校舎 526 会議室	6	0
ブラインドサッカーに関してゲームを通しチームビルディングを学ぶ	富士見坂体育館	15	0
東京2020をふまえた外国人おもてなし語学ボランティア基礎講座	大内山校舎 Y604 教室	52	4
障がい児サッカー教室でのスポーツボランティア	品川区特別支援学校体育館	4	0
VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動	外濠周辺	8	0
荒川区の商店街のおまつりでのボランティア	荒川区はっぴいもーる商店街	11	0
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の事前研修	外濠校舎 526 会議室、東京メトロ飯田橋駅	13	0
障がいのある方々に対しての心づかいを学ぶ	外濠校舎 526 会議室	7	0
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の事前研修	外濠校舎 526 会議室、東京メトロ飯田橋駅	15	1
災害模擬体験と実技、災害時のチームビルディングとリーダーシップについて学ぶ	大内山校舎 Y402 教室、本所防災館、市ヶ谷総合体育館	30	2
自閉症スペクトラム障がいについての知識を身につける、講義とワークショップ	外濠校舎 526 会議室	9	0
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎	5	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	靖国通り周辺、九段商店街	4	0
被災地復興のために働くとは、被災地支援を活かしたキャリア形成	外濠校舎 526 会議室	26	0
VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動	外濠周辺	14	0
4団体合同ミーティング	外濠校舎 527 会議室	12	0
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会（月1回）	東京メトロ飯田橋駅	5	0
ピアネットに所属する団体の発表と懇親会	ポアソナー・ドタワー 26 階スカイホール	22	0
障がい児サッカー教室でのスポーツボランティア	品川区特別支援学校体育館	4	0
ゴールボールを体験し、障がい者スポーツについて学ぶ	富士見坂体育館	17	3
非常食の試食、避難所運営ゲームで防災についての知識を身につける	大内山校舎 Y803、804 教室	15	1
防災教育普及協会からの要請による防災イベントで防災カルタを出版	有明 東京臨海広域防災公園そなエリア 東京	5	0
防災・減災対策の一環として災害の現場でのファシリテーターの重要性を学ぶ	外濠校舎 526 会議室	15	0
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎・外濠校舎 106 会議室（分別）	9	0
VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動	外濠周辺	11	0
障がい児サッカー教室でのスポーツボランティア	品川区特別支援学校体育館	1	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	靖国通り周辺、九段商店街	雨天中止	
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会（月1回）	東京メトロ飯田橋駅	8	1
日本語を母語としない子ども達の学習支援、居場所づくり	北区北トピア	1	0
千代田区主催の子供向け防災イベント、防災クイズカルタ体験	千代田区役所	10	0
フードバンク（学祭に向けての試行）	富士見坂教授室、58 年館入口	2	0
東北被災地支援ボランティアツアー下見	陸前高田市、大槌町	3	0
気仙沼児童館での子どもボランティア	気仙沼市 気仙沼児童館	11	0
飯田橋～小石川橋までの浚渫工事の見学	大内山校舎 Y804 教室、外濠 新見附橋～飯田橋	4	0
市ヶ谷、多摩、小金井3キャンパスを1日で回り清掃	市ヶ谷キャンパス、多摩キャンパス、小金井キャンパス	11	0
岩手県遠野市をベースにした陸前高田市、大槌町での被災地ボランティア事前説明会	外濠校舎 526 会議室	35	0
岩手県遠野市をベースにした陸前高田市、大槌町での被災地ボランティア	陸前高田市、大槌町	20	0

市ヶ谷ボランティアセンター
活動について
イベントカレンダー

8月22日(木)～26日(月)	<キリン福祉財団助成事業>東北被災地ボランティアツアー(40、41次隊)	遠野・山・里ネットワーク、チーム・オレンジ
8月27日(火)	[東京2020応援]千代田キャンパスコンソーシアム協力)高齢者と音楽を通じて楽しく交流しよう	千代田区立高齢者総合サポートセンター かがやきプラザ、VSP
9月7日(土)	荒川区緑日大会～お祭り～ポッチャ体験会(荒川区社会福祉協議会)	荒川区社会福祉協議会、VSP
9月9日(月)	[東京2020応援]目の不自由な方のサポートについて学ぼう(三宅氏講演&メトロ構内見学)	日本視覚障害者団体連合 三宅氏、東京メトロ、飯田橋駅ボランティアスタッフ
9月14日(土)	OluOlu発達障がい児サッカー教室	OluOlu、品川区特別支援学校体育館、VSP
9月15日(日)	法政フェア	チーム・オレンジ
9月19日(木)	総長との座談会	田中優子総長、VSP、チーム・オレンジ、教プロ、新聞学会(各1名)
9月20日(金)	九段靖国神社周辺清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
9月21日(土)	高円寺子ども食堂ボランティア(ポッチャ体験)	高円寺子ども食堂、VSP
9月23日(月・祝)	<キリン福祉財団助成事業>東北被災地ボランティアツアー報告会	チーム・オレンジ、ボランティアツアー参加学生
9月24日(火)	エコキャップ回収ボランティア	VSP
9月25日(水)	[東京2020応援]東京メトロ飯田橋駅ボランティア定例会	東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
9月25日(水)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
10月1日(火)	4団体合同ミーティング②	VSP、チーム・オレンジ、キャンエコ、メトロボランティア 各スタッフ
10月2日(水)	[東京2020応援]ユニバーサルシアターで学ぶバリアフリー映画	シティ・ライツ、シネマチュブキタバタ、VSP
10月3日、10日、24日、11月7日、14日、21日、28日、12月5日(木)	手話講座(入門編)	NHK手話キャスター中野佐世子氏
10月5日(土)	MIW祭り(ポッチャ体験会)	VSP
10月7日(月)	[東京2020応援]オリンピックとドーピング	法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート、近藤良孝氏、伊藤マモル教授
10月9日(水)	[東京2020応援]外濠の浸透工事について知り環境問題改善について学ぶ	小柳建設株式会社、VSP
10月12日(土)	お寺をきれいにしたいに心も(坐禅企画)	新宿区大龍寺、VSP
10月12日(土)	OluOlu発達障がい児サッカー教室	OluOlu、品川区特別支援学校体育館、VSP
10月12日(土)	千代田区ふれあい福祉祭り	第17回ふれあい福祉まつり実行委員会、VSP
10月13日(日)	北区まなび場 Let's study	北区まなび場 Let's study、VSP
10月15日(火)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
10月18日(金)	九段靖国神社周辺清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
10月19日(土)～20日(土)	<電通育英会助成事業>富士山清掃・トレイル整備ボランティアツアー	富士山クラブ、VSP
10月23日(水)	エコキャップ回収ボランティア	VSP
10月23日(水)	[東京2020応援]車いすラグビーから学ぶパラリンピック競技の魅力	日本車いすラグビー連盟 福井正浩氏、VSP
10月24日(木)	[東京2020応援]東京メトロ飯田橋駅ボランティア定例会	東京メトロ、日本ケアフィット共育機構、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
10月26日(土)・27日(日)	神保町ブックフェスティバル	神保町ブックフェスティバル実行委員会、VSP
10月26日(土)	(千代田キャンパスコンソーシアム協力)富士見わんぱくひろば「わんぱくこどもまつり」ボランティア	千代田区ふじみわんぱくひろば、パフォーマンスサークルすだま、児童文化研究会
10月27日(日)	OluOlu発達障がい児サッカー教室	OluOlu、品川区特別支援学校体育館、VSP
10月27日(日)	北区まなび場 Let's study	北区まなび場 Let's study、VSP
11月1日(金)～4日(月)	食べ物を求めてます～フードドライブ(大学祭)	VSP、キャンパスエコロジフォーラム
11月1日(金)	ポッチャ企画(大学祭)	VSP、学祭実行委員会
11月5日(火)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
11月9日(土)～10日(日)	防災キャンプ	防災教育コーディネーター 宮崎賢哉氏、チーム・オレンジ
11月14日(木)	[東京2020応援]それぞれの色で輝ける社会、考えてみませんか?(性的マイノリティについて考える)	国際化学部専任講師 岩川ありさ氏、VSP
11月16日(土)	<東京都・法政大学ボランティアセンター共同実施>外国人おもてなし語学ボランティア講座	東京都
11月18日(月)～11月22日(金)	千代田区キャンパスコンソーシアム	法政大学学企企画課、VSP
11月20日(水)	九段靖国神社周辺清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
11月22日(金)	[東京2020応援]東京メトロ飯田橋駅ボランティア定例会	東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
11月24日(日)	2019年度中国大学生友好交流訪日団「環境・防災セミナー」プレゼンテーション	公益社団法人青年海外協力協会(JOCA)主催「環境・防災セミナー」
11月25日(月)	エコキャップ回収ボランティア	VSP
11月25日(月)～11月29日(金)	HOSEI SDG s WEEK ポスターセッション	HOSEI SDGs WEEK、VSP
11月26日(火)	4団体合同ミーティング③	VSP、チーム・オレンジ、キャンエコ、メトロボランティア 各スタッフ
11月28日(木)	チーム・オレンジが教える秋学期防災訓練	庶務課、チーム・オレンジ
11月28日(木)	日本に暮らす外国人のサポートについて学ぼう	聖心女子大学非常勤講師 加藤丈太郎氏、VSP
12月3日(火)～2月28日(金)	[新設]2019年災害等復興支援ボランティア活動に伴う交通費助成金募集	台風15、19号災害等による被災地支援(学内応募者)
12月7日(土)	お寺をきれいにしたいに心も(坐禅企画)(振替)	新宿区大龍寺、VSP
12月8日(日)	[東京2020応援]福島スタディツアー	チーム・オレンジ
12月10日(火)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
12月11日(水)	[東京2020応援]目の不自由な方のサポートについて学ぼう(振替)	日本視覚障害者団体連合 三宅氏、東京メトロ、飯田橋駅ボランティアスタッフ
12月14日(土)	ピアネット研修会	ピアネット所属団体
12月15日(日)	荒川サクタクロースプロジェクト(荒川区社会福祉協議会・汐入おもちゃ図書館)	荒川区社会福祉協議会、VSP
12月15日(日)	荒川区 バイタルプロジェクト廃油石鹸づくり	バイタルプロジェクト(吉まぐれ屋)、VSP
12月18日(水)	[東京2020応援]東京メトロ飯田橋駅ボランティア定例会	東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
12月18日(水)	エコキャップ回収ボランティア	VSP
12月20日(金)	九段靖国神社周辺清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
12月21日(土)	高円寺子ども食堂クリスマス会で子どもと遊ぼう	高円寺子ども食堂、VSP
12月22日(日)	OluOlu発達障がい児サッカー教室	OluOlu、品川区特別支援学校体育館、VSP

若手県遠野市をベースにした陸前高田市、大槌町での被災地ボランティア	陸前高田市、大槌町	20	0
高齢者の方達との楽器演奏&合唱を通じた触れ合いボランティア	千代田区高齢者総合サポートセンター	18	0
荒川区の商店街のおまつりでポッチャ体験会	荒川区ジョイフル三ノ輪商店街	3	0
講義と体験を通じて、視覚障がいのある方へのサポートを学ぶ	外濠校舎 526 会議室・東京メトロ飯田橋駅	台風のため延期	
障がい児サッカー教室でのスポーツボランティア	品川区特別支援学校体育館	2	0
東北のイメージアップ、被災地支援のためのパネル展示、防災クイズカルタ体験	外濠校舎	9	0
田中総長との対談、雑誌 HOSEI に掲載	ボアソナードタワー 25 階スタッフクラブ	4	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	靖国通り周辺、九段商店街	3	0
子ども食堂ボランティア、バラスポーツポッチャを子ども達に紹介	高円寺子ども食堂（杉並区）	3	0
各隊の被災地での活動報告、ふりかえり	大内山校舎 Y402 教室	35	0
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎	3	0
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会（月 1 回）	東京メトロ飯田橋駅	3	0
VSP の定例活動の 1 つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動	外濠周辺	12	0
4 団体合同ミーティング	富士見坂校舎 F408 教室	8	0
視覚障がい者、聴覚障がい者、車いすの方も映画を楽しめるユニバーサルシアターについて学ぶ	北区田端 シネマチュブキタバタ	12	0
手話講座入門（手話ゲームブック）歌やゲームを交えて手話の基礎、聴覚障がいについて学ぶ	大内山校舎 Y504 教室	35	0
千代田区地域貢献ボランティア MIW 祭りでのポッチャ体験イベントを行う	千代田区役所 男女共同参画センター MIW（ミユウ）	4	—
スポーツに関わる学生にアンチ・ドーピングの重要性を伝える	ゲート横 G401 教室	102	—
浸透工の概要や環境問題について講義、ワークショップ	外濠校舎 526 会議室	33	0
清掃活動、座禅体験、ボランティアについての講話	新宿区 起雲山大龍寺	台風のため延期	
障がい児サッカー教室でのスポーツボランティア	品川区特別支援学校体育館	台風のため中止	
福祉まつりの練日ブースお手伝い	千代田区役所かがやきプラザ	台風のため中止	
日本語を母語としない子ども達の学習支援、居場所づくり	北区北トピア	台風のため中止	
VSP の定例活動の 1 つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動	外濠周辺	9	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	靖国通り周辺、九段商店街	雨天中止	
富士山トレイル整備と清掃（宿泊）	富士山麓周辺	台風の影響により延期	
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎	11	0
バラスポーツ車いすラグビーの体験と障がい者スポーツについて学ぶ	富士見坂体育館	17	0
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会（月 1 回）	東京メトロ飯田橋駅	4	0
神保町のブックフェスティバルの運営等のお手伝いボランティア	千代田区神保町すずらん通り	19	0
千代田区の児童施設でのハロウィンイベントでの受付や演奏、マジックや歌などのボランティア	千代田区富士見わんぱくひろば	23	0
障がい児サッカー教室でのスポーツボランティア	品川区特別支援学校体育館	3	0
日本語を母語としない子ども達の学習支援、居場所づくり	北区北トピア	2	0
正門前にてフードバンクを行い、大学祭中に出た食料をセカンドハーベストジャパンへ送付	富士見ゲート正面	2	0
学生ラウンジにてポッチャ体験	富士見ゲート棟学生ホール	8	0
VSP の定例活動の 1 つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動	外濠周辺	5	0
外濠校舎 1 階メディアラウンジ等を使用し、首都直下地震を想定したキャンプ	外濠校舎メディアラウンジ等	17	0
性的マイノリティについての講座とワークショップ	外濠校舎 526 会議室	14	0
東京 2020 をふまえた外国人おもてなし語学ボランティア基礎講座	大内山校舎 Y604 教室	35	0
千代田区キャンパスコンソ大学のポスター掲示	外濠校舎メディアラウンジ	—	—
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	靖国通り周辺、九段商店街	3	0
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会（月 1 回）	東京メトロ飯田橋駅	5	0
2019 年度中国大学生友好交流訪日団に向けて、防災の試みについてのプレゼンテーション	港区 AP 浜松町	3	0
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎、田町校舎	15	0
SDG s に関する企画の紹介ポスター展示	外濠校舎メディアラウンジ	—	—
4 団体合同ミーティング	外濠校舎 529 会議室	7	0
避難所運営ゲームを通じて職員に向けての防災啓発	外濠校舎 526 会議室	10	0
日本で暮らす外国人のサポートについて考える講義とワークショップ	外濠校舎 526 会議室	27	2
災害地へのボランティア参加学生への交通費、保険費の補助	—	10（申請者数）	—
清掃活動、座禅体験、ボランティアについての講話	新宿区 起雲山大龍寺	18	0
福島被災地をめぐる学ぶツアー	福島県いわき市、相双地区	38	0
VSP の定例活動の 1 つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動	外濠周辺	9	0
講義と体験を通じて、視覚障がいのある方へのサポートを学ぶ	外濠校舎 526 会議室、外濠校舎	7	0
ピアニストに所属する団体の発表と懇親会	大内山校舎 7 階 Y705 教室、BT 地下 1 階フォレストガーデン	17	0
クリスマスにサンタクロースに扮して子ども達を楽しませるボランティア	荒川区 汐入おもちゃ図書館	3	0
廃油による石鹸づくりを通して環境保護を子ども達に教える	荒川区 吉まぐれ屋	7	0
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会（月 1 回）	東京メトロ飯田橋駅	6	0
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎、田町校舎	4	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	靖国通り周辺、九段商店街	4	0
子ども食堂ボランティア、子ども達と一緒にピアノ演奏でクリスマスソングを歌う	高円寺子ども食堂	8	0
障がい児サッカー教室でのスポーツボランティア	品川区特別支援学校体育館	3	0

12月24日(火)	荒川サントークスプロジェクト(荒川区社会福祉協議会・あらかわおもちゃ図書館)	荒川区社会福祉協議会、VSP
12月25日(水)	荒川サントークスプロジェクト(荒川区社会福祉協議会・おぐ銀座おもちゃ図書館)	荒川区社会福祉協議会、VSP
12月26日(木)～28日(土)	気仙沼児童館ボランティア(チーム・オレンジ)	チーム・オレンジ
12月中旬	チームオレンジ被災地応援グッズ企画	HU、チーム・オレンジメンバー
12月27日(金)	大和証券福祉財団「第26回ボランティア活動助成」贈呈式	大和証券福祉財団、チーム・オレンジメンバー(1名)
1月9日(木)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
1月12日(日)	北区まなび場 Let's study	北区まなび場 Let's study、VSP
1月19日(日)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	OluOlu、品川区特別支援学校体育館、VSP
1月20日(月)	九段靖国神社周辺清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
1月20日(月)	エコキャップ回収ボランティア	VSP
1月24日(金)	[東京2020応援] 東京メトロ飯田橋駅ボランティア定例会	東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
2月16日(日)	北区まなび場 Let's study	北区まなび場 Let's study、VSP
2月20日(木)	九段靖国神社周辺清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
2月22日(土)	富士見わんぱくひろば「アートフェスティバル」	富士見わんぱく広場、伊藤口ポット研究室、Bebap
2月25日(火)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
2月29日(土)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	OluOlu、品川区特別支援学校体育館、VSP
3月1日(日)～4日(水)	岩手・宮城スタディツアー	遠野・山・里ネットワーク、チーム・オレンジ
3月5日(木)	[東京2020応援] 東京メトロ飯田橋駅ボランティア活動報告会	東京メトロ、ケアフィット共有機構、日本視覚障害者団体連合、千代田区社協、メトロスタッフ
3月8日(日)～10日(火)	バイラー大学との合同ボランティアツアー	バイラー大学(テキサス州)、荒川区社会福祉協議会、国際交流課、富士見わんぱく広場、東京メトロ飯田橋駅ボランティア、キャンエコ、チーム・オレンジ、VSP
3月16日(月)	<電通育英会助成事業>(千代田区キャンパスコンソーシアム協力)[3大学連携協力協定]富士山トレイル整備ボランティアツアー	富士山クラブ、VSP
3月17日(火)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
3月19日(木)	九段靖国神社周辺清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
3月26日(木)	[東京2020応援] 東京メトロ本社訪問	東京メトロ、飯田橋駅ボランティアスタッフ

142プログラムに1,658名参加(学生のみカウント)

クリスマスにサンタクロースに扮して子ども達を楽しませるボランティア	荒川区 あらかわおもちゃ図書館	1	0
クリスマスにサンタクロースに扮して子ども達を楽しませるボランティア	荒川区 おぐ銀座おもちゃ図書館	2	0
気仙沼児童館での子どもボランティア	宮城県気仙沼市気仙沼児童館	5	0
チーちゃんオーレくんのポーチ、エコびよんのエコバッグ（売上の一部を被災地へ募金）	法政大学オリジナルグッズショップ	2	0
大和証券福祉財団「令和元年度（第26回）ボランティア活動助成」贈呈式出席	グランドトウキョウ ノースタワー	1	0
VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動	外濠周辺	5	0
日本語を母語としない子ども達の学習支援、居場所づくり	北区北トピア	3	0
障がい児サッカー教室でのスポーツボランティア	品川区特別支援学校体育館	1	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	靖国通り周辺、九段商店街	2	0
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	外濠校舎	7	0
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会（月1回）	東京メトロ飯田橋駅・外濠校舎	6	0
日本語を母語としない子ども達の学習支援、居場所づくり	北区北トピア	3	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	靖国通り周辺、九段商店街	3	0
テーマ「音と光」に沿ったパフォーマンス	千代田区富士見わんぱくひろば	コロナウィルス感染防止のため中止	
VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動	外濠周辺	9	0
障がい児サッカー教室でのスポーツボランティア	品川区特別支援学校体育館	コロナウィルス感染防止のため中止	
岩手県遠野市、釜石市・宮城県気仙沼でのスタディツアー	岩手県釜石市、宮古市、陸前高田市、宮城県気仙沼市など	コロナウィルス感染防止のため中止	
今年度の活動報告など	大内山校舎 Y401 教室	コロナウィルス感染防止のため中止	
海外交流協定大学バイラー大学の学生と日本でのボランティアを体験（子ども食堂・おもちゃ図書館）、東京観光、日本食文化体験など	大学構内、東京メトロ飯田橋駅、荒川区バイタルプロジェクト、富士見わんぱくひろば、外濠周辺など	コロナウィルス感染防止のため中止	
富士山麓のトレイル整備ボランティアツアー、富士山麓の環境学習もあり	富士山麓	コロナウィルス感染防止のため中止	
VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動	外濠周辺	コロナウィルス感染防止のため中止	
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	靖国通り周辺、九段商店街	コロナウィルス感染防止のため中止	
飯田橋駅ボランティアスタッフによる本社訪問、次年度についての打合せ	東京メトロ本社ビル	コロナウィルス感染防止のため中止	

1. ボランティア説明会

1. 日 程 2019年4月6日(土)

2. 場 所 富士見ゲート G502 教室

3. 概 要

説明会に参加したボランティア団体は、VSP、チーム・オレンジ、東京メトロ飯田橋駅ボランティア、キャンパスエコロジーフォーラムの4団体でした。

今回のボランティア説明会は2部制となっており、前半は各団体の説明、後半は団体ごとにブースを設置して個別相談を実施しました。

前半は、持ち時間5~10分程度で団体の特徴や活動内容を新入生に分かりやすいようスライドや動画を用いて工夫しながら新入生に説明をしました。

後半は、新入生が興味を持ったブースで不安な点や疑問点を質問したり、先輩の話の聞いている姿が多く見られました。

今回のボランティア説明会は企画段階から各団体の代表者が集まり、どのように広報すればより興味を持った学生の来場を促せるのか、どのような方法で開催すればより新入生に団体の魅力が伝わるのか、を考えて実施しました。当日の司会・進行、設営も学生が主体となって行いました。説明会の開催は初の試みでしたが、80名以上の新入生の参加があり盛況のうちに終了することができました。

4. 学生参加者数 100名

5. 企画学生の感想

想像以上に多くの新入生が来場し、チーム・オレンジや、他の団体について知っていただいていたといい機会だったと思います。私自身他の団体については知らないことも多かったのでここで知ったことをボランティアウィークでの説明に活かすことができ良かったです。

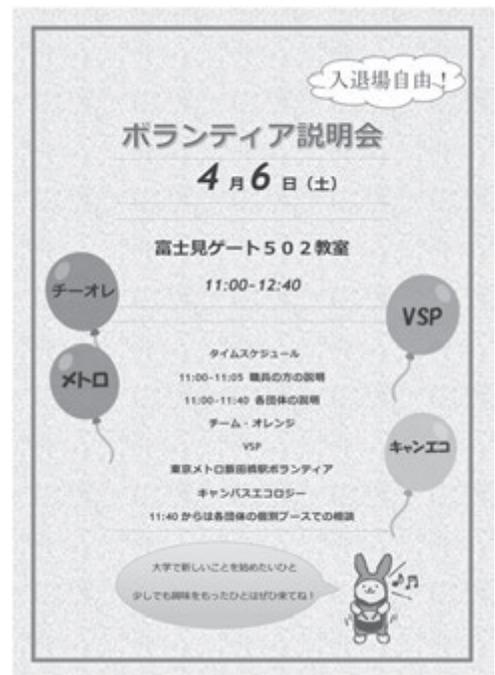
チーム・オレンジ学生スタッフ 法学部政治学科3年 三輪 窓佳

初めてのボランティア説明会でしたが、多くの学生に来てもらえました。段取りもスムーズに行えたので、個別対応で詳しい活動内容や、魅力を伝えられました。一方、スライドの内容が少ない、見辛いという印象を抱いたので、冊子配布などで改善した方が良かったと思います。

VSP 学生スタッフ 人間環境学部人間環境学科2年 赤羽 永遠

私たちは実質いつも独立して活動しているため、他のボランティア団体と共通の場で発表することで、自分たちの立ち位置や、新入生が興味のある分野など、普段の活動だけでは気付けないことを体得する貴重な機会となりました。

東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ 文学部日本文学学科2年 田中 康太



各団体のチラシを手に説明を聞く様子



ボランティアスタッフからの活動紹介

2. 春のボランティア WEEK

1. 日程 2019年4月8日(月)～12日(金)

2. 場所 外濠校舎 1階メディアラウンジ

3. 概要

ボランティアに興味を持つ学部生に向けて、学内のサークルや、ボランティア学生団体、サークルを紹介することで、新メンバーを求める各ボランティアサークル、ボランティアをしてみたい学生双方に対し、4月8日(月)～12日(金)の期間「春のボランティア WEEK」を実施しました。

例年同様、メディアラウンジでは、展示による活動報告を行うと同時にサークルごとの相談ブースを設置。昼休みを中心に、主に新入生の相談に応える姿が見られました。

学生主体によるSNSでの宣伝や説明会前のピラ配り、来場者への声かけなどを気軽に行い、イベントの認知度も上がりました。

各団体の活動や特徴を知ってもらうだけでなく、新入生の相談の対応、学生スタッフ自身も他団体について理解を深め、学生スタッフ同士の交流の場にもなりました。

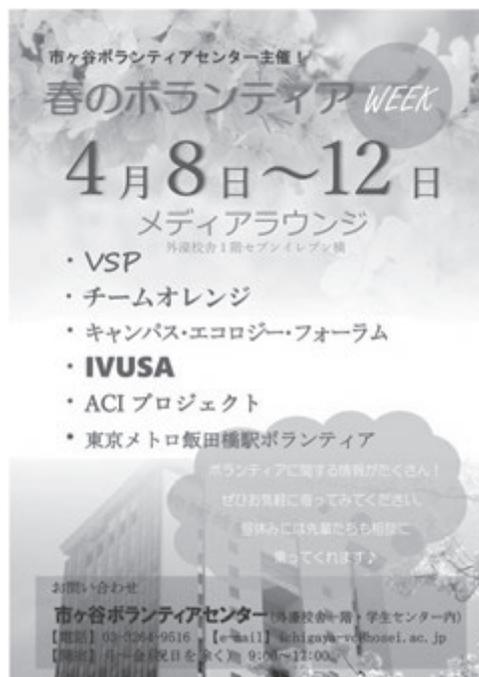
4. 学生参加者数 50名

5. 企画学生の感想

今年の春のボランティア WEEK には約50人の学生が訪れ、多くの方にボランティアに興味を持ってもらうことができました。また実施までに他団体と連携しながら行うことで、自分たちの活動を客観的に振り返ることができたと共に、他団体の様々な活動を知ることで多くの刺激を受けました。

今後も他団体と積極的に連携・協力しながら、多くの方に興味を持ってもらえるよう積極的に活動していきたいと思えます。

人間環境学部人間環境学科2年 河野 慎平



熱心に話を聞く学生



ボランティアメンバーの交流の場にも

3. キャンパス周辺清掃ボランティア

1. 日程 2019年4月～2020年3月（基本は毎月1回 昼休み）

2. 場所 市ヶ谷キャンパス周辺（外濠周辺）

3. 概要

市ヶ谷ボランティアセンター・学生スタッフ（VSP）主催。基本的に月1回、毎回30分間ほど、大学周辺の清掃ボランティアを行っています。今年度は、ゴミを集める際に使用しているビニール袋についても、環境保全の観点から見直しを行い、まずは自宅にあるビニール袋を再利用しようという案が出ました。学生スタッフ（VSP）の活動の柱の一つであり、参加する一般学生と一緒に活動しながら、ボランティア活動の促進につなげていきます。

4. 学生参加者数 のべ88名 ※8、3月は休み

日程	参加者数（申込者数）
4月23日（火）	9名（9名）
5月15日（水）	14名（16名）
6月25日（火）	14名（14名）
7月10日（水）	11名（11名）
9月25日（水）	12名（13名）
11月5日（火）	5名（6名）
12月10日（火）	9名（9名）
1月9日（木）	5名（5名）
2月25日（火）	9名（9名）



外濠の土手を清掃する様子



清掃終了後、全員で集合写真

4. エコキャップ DE キャンパスツアー

1. 日程 2019年4月16日(火)

2. 場所 外濠校舎、富士見坂校舎

3. 概要

VSPは学内に設置されているペットボトルキャップの回収容器から、定期的にペットボトルキャップを回収しており、集めたペットボトルキャップは、無料の回収業者に送付し、世界の子供たちにワクチンを贈る活動を行っています。2018年度は、353kgのペットボトルキャップを回収しましたが、本活動の認知度は高くありません。そこで、この回収活動を新入生に関心を持ってもらうため、ペットボトルキャップの回収ポイントをまわりながら、学内の施設を学生目線で案内するというボランティアイベントを昨年同様実施いたしました。本企画を実施するにあたりVSPのメンバーが、ツアーの経路図を作成したり、下見を重ねたりした結果、当日は参加者とエコキャップを回収しながら、外濠校舎と富士見坂校舎を効率よく案内することができました。新入生が6人参加し、また参加者で集めたペットボトルキャップは約15kgとなり、参加者からは「意外と集まった」、「ボランティアしながらキャンパスのことが知れてよかった」など意見がありました。

・主なコース(経路)

ボランティアセンター～外濠校舎4階～富士見坂校舎3階～富士見坂校舎2階～富士見坂校舎1階～外濠校舎3階～外濠校舎2階～図書館前～ピロティ～富士見ゲート前正面階段～外濠校舎1階～ボランティアセンター

4. 学生参加者数 12名

5. 企画学生の感想

多くの新入生に参加していただけてとても嬉しく思います。昼休みだけのツアーということもあり、時間的にキャンパス内をすべて回るのは出来ませんでした。キャップを回収しながら、他の参加者と話せて良かったです。

文学部哲学科2年 佐久間 喜望

多くの新入生に参加してもらい、キャップを回収しながらキャンパス内の「お得」な情報を伝えることが出来ました。今回の企画を通じてエコキャップの回収に興味・関心を持ち、新入生・在学生問わず、今後より多くの学生に参加してもらえればと思います。

人間環境学部人間環境学科2年 河野 慎平



キャップ回収の経路を皆で確認する



回収の様子

6. 資源のムダについて考えよう リサイクルペーパーのゆくえと環境保護

1. 日程 2019年4月27日(土)
2. 場所 齋藤英次商店 柏沼南営業所(柏市)
3. 概要

この企画は、昨年4月の新歓期間中に行った新歓ピラ回収を行った際に、数千、数万にも及ぶピラ・チラシが集まり、「何かに再利用出来ないか」と考えたのが始まりです。昨年の収集だけで終わった悔しい想いと、新歓期の周りからの評価により企画に対する想いも強いものがありました。

今回の企画実施については、事前の新歓ピラ回収と企画実施とで、2段階による構成となりました。新歓期間前から、今年のピラの量、新歓に来る学生数等を予想し、それ相当の回収箱の設置や、ピラの回収後についても企画メンバーで議論し合い、回収時は定期的にメンバーが回収箱の確認、ごみ等の不要物を取り除く活動も行いました。新歓期間中に集まったピラの枚数はおよそ8,000枚で大学全体の収集量としては10,000枚を超えました。

そうした中で、収集したピラの使用法を議論し合い、結果としてリサイクル会社に持参し、古紙がどういった流れで製紙会社へ送られているのかを知る企画を行うことになりました。

リサイクル会社、齋藤英次商店(株)へ訪問し、古紙の回収から、プレス、お送り先の企業や紙リサイクルの循環についてを詳しく学び、企画参加学生で意見を共有することで、また1つ古紙のリサイクルに対する想いも変化しました。

法学部政治学科3年 藤山 雄多

4. 学生参加者数 6名

5. 参加学生の感想

段ボールの山にはとても驚きました。段ボールが大量にある理由が、中国の輸入規制によることはもちろん、電子化が進むにつれて、紙の廃棄が減る一方、通販の広まりなどで段ボールの廃棄物が増えているからだということには、得心が行きました。また、上質なパルプである牛乳パックは特に分別が大切であること、紙・段ボールにホチキスがついていてもよいことなど、分別・リサイクルについて多くのことを学びました。

法学部政治学科2年 高橋 克典

昨年の4月から始めた新歓ピラ回収、惜しくも昨年は収集するだけで終わってしまいましたが、この度リサイクル工場の見学を踏まえ、自分達の排出した古紙がどういった流れで、再び紙へ戻っているのか理解することができた。また古紙のリサイクル循環から日本、中国、アジアとの社会政策についても触れる事ができ、身近な問題が世界を動かす大きな問題なのだと思いを隠せなかった。来年も是非継続したい。

法学部政治学科3年 藤山 雄多



収集車の前で



見学の後、集合写真

7. インクルーシブデザインワークショップ体験会

1. 日程 2019年5月17日(金)

2. 場所 外濠校舎5階526会議室

3. 概要

講師である株式会社インクルーシブデザイン・ソリューションズ 高山希氏から、インクルーシブデザインの説明と、私たちが普段使用しているストローやZippoライター、リンスとシャンプーを見分けるためのボトルについている凹凸などが紹介され、学生たちは興味深く講義を聞いていました。

その後、2人1組でワークショップを行いました。1つ目は、財布を利用する際の感情をグラフ化するワークです。何気なく使用している財布も細かく分析すると「ポイントカードが多すぎて見つからない」、「小銭が財布から落ちやすい」、「いらぬレシートで財布が膨らむ」等、小さな不便や不快感が分かり健康者でも潜在的には今使われているモノに不便さを感じていること、その不便さが新たなニーズを生むことを理解しました。

2つ目のワークは、1人が視覚障がい、片方の手が使えないなどのハンデを抱えている役をし、絆創膏を袋からとりだしケガしている部位に張る。もう一方の学生は、この一連の動作観察、不便だと思われる点を附箋に記録するワークを行いました。学生はいろいろなハンデの中で試行錯誤しながら絆創膏を張っていました。一方で、記録する学生も熱心に一つの動作を丁寧に記録し絆創膏の問題点を洗い出していました。体験会を通して、普段の生活では気づかない視点、考え方を体験できたのではないかと思います。

4. 学生参加者数 17名

5. 参加学生の感想

自分が生活の中で使っている物が、身体的条件の違いで見え方も違うことを学びました。その上でどのように改良するかを考えることにより、既存の道具の使い方を見直し、製品へのアプローチについて考えることができました。

チームワークで他者の考え方も聞けたので、自分にはないアイデアがとても参考になりました。

経営学部経営学科3年 宇野 葉美

健康者である自分が、今まで考えたことのないようなことがたくさんあった。今まで多くのことを見逃していたことがわかって、これからの日常も注意深く観察してみようと思えたいい機会となった。

文学部史学科2年 坪井 雄大



相手の不自由な点から商品開発にチャレンジ



リードユーザーを設定して相手の問題点を探す

8. 高円寺子ども食堂

p.60「高円寺子ども食堂ボランティア」もご参照ください。

1. 日 程 毎月第1、3土曜日

2. 場 所 高円寺子ども食堂

3. 概 要

杉並区にある「高円寺子ども食堂」は毎月第1・3土曜日に開かれており、毎回多くの子もたちや保護者の方、ご高齢の方が訪れています。私たちVSP学生スタッフは、子ども食堂の運営のお手伝いをするために、定期的に活動に参加しています。活動内容はその時によって様々ですが、毎回行うのは「会場設営」「受付」「配膳補助」「後片付け」です。「会場設営」は、会場の飾りつけや子どもたちに渡すお菓子の袋詰め、机や椅子の配置を行います。「受付」では、お客様の名前の確認、袋詰めしたお菓子の受け渡しなどを行います。「配膳補助」は、ご飯を運ぶのが大変そうな方のお手伝い、お茶運びです。「後片付け」は、食器洗いや会場の掃除などを行います。そのほかにも空いた時間に子どもたちと一緒に遊んだり、季節によって様々なイベントを開催したりすることもあります。

4年目を迎える子ども食堂ボランティアは、VSP学生スタッフだけでなく、毎回多くの一般学生が参加しています。他大学や社会人ボランティアの方とも交流が持てることもあり、今後も継続したい活動の一つです。

4. 学生参加者数 延べ18名

日 程	参加者数
5月18日(土)	4名
10月19日(土)	3名
2月1日(土)	5名
2月15日(土)	6名

5. 参加学生の感想

私は1年生の頃からこの子ども食堂ボランティアに参加しています。最初は子どもたちとお話するのが楽しいということだけで活動していましたが、回数を重ねるごとにそれぞれのご家庭の事情なども見えるようになり、子ども食堂の存在意義も考えるようになりました。大学生の私に何ができるのか、今後も活動を通して考えていきたいと思います。

VSP学生スタッフ 文学部日本文学科2年 齋藤 真悠



来場者の受付をして食券を渡す



お皿洗い、片付けの様子

9. ～電通育英会助成事業～ 富士山外来植物駆除ボランティアツアー

1. 日程 2019年5月19日(日)

2. 場所 富士山麓

3. 概要

「NPO法人・富士山クラブ」の指導のもと実施した「富士山外来植物駆除」の活動は今年で7度目の実施となり、38名の学生が参加しました。また、「千代田区内近接大学の高等連携強化コンソーシアム(千代田区キャンパスコンソーシアム)」を構成する他大学の学生(共立女子大3名)も参加しました。行きのバスの中では、一人で参加する学生も楽しめるように、ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)が考えたクイズによるレクリエーションを行い、キャンパスや大学を超えた交流をしました。

世界文化遺産でもある富士の自然の美しさを参加学生に知ってもらうため、富士山クラブの指導のもと、青木ヶ原樹海のトレッキングを約2時間実施し、樹海に生息している動植物の生態系を学ぶことができました。また道中では、コウモリ穴にも入洞し自然の壮さを感じることもできました。

その後、アルピニストの野口健さんの事務所もある富士山クラブの事務所前広

場で昼食をとり、外来植物が多く生息している西湖畔に移動し、駆除対象である「オオキンケイギク」の説明を富士山クラブから受けました。オオキンケイギクは北米原産のキク科の宿根草で、繁殖力が非常に高く、日本の特定外来生物(環境省指定)植物類6種のうちの1種、また、日本の侵略的外来種ワースト100(日本生態学会指定)のうちの1種に指定されています。説明をうけた後に、西湖畔の水辺に生息するオオキンケイギクの駆除に参加者全員で行いました。加えて、当日は湖の水位が低く岸辺にゴミの漂着が見られたので、清掃作業も合わせて行いました。約1時間半の活動でしたが、今回の作業範囲内は全て駆除することができ、達成感が得られました。

活動後は、「富士山世界遺産センター」に移動し、各班にわかれ、ボランティアセンター学生スタッフを中心に、情報共有、振り返りを行い、外来植物駆除を広めるアイデアを発表するなど充実した活動となりました。

今後も法政大学ボランティアセンターでは富士山の外来植物駆除・清掃活動を継続的に行っていきます。

VSP 企画学生スタッフ デザイン工学部都市環境デザイン工学科2年 長谷川 陸

4. 学生参加者数 38名

5. 参加学生の感想

青木ヶ原樹海のトレッキングでは、普段生活しているなかでは見ることでできない大自然の中に実際に足を踏み入れることにより身体全体で“自然”というものを感じることができました。今回初めてこのツアーに参加させていただきましたが、特定外来植物であるオオキンケイギクの駆除では、この活動を継続することが微力ながらも自然を保護する力になるのだと学びました。

法学部法律学科1年 武田 大空

外来植物(オオキンケイギク)がもたらす自然界への影響について知ることができ、またコウモリ穴やコウモリ自体が天然記念物であったことを学ぶことができたのは良かったと思います。普段から目にする松の木にも様々な種類や特徴があることや、歩きながらよく見た竜筆草について知ることができたのも良かったと思います。

何も後先考えず綺麗だからというような理由から持ち込み、植えてしまいました。これを受け特徴や知識をちゃんと認識し、外から受け取らないことが大切だということを改めて感じました。

今回のボランティアを受け、自然環境についての認識を高めることができました。ゴミの分別や自然環境に配慮された容器を使うなど、自分たちができるところは今まで以上に気をつけていきたいと思います。

共立女子大学 文芸学部劇芸術専修3年 中田 光咲



「富士山駆除活動」に参加するのは、今回で2回目ですが、前は11月に訪れたので、5月の富士山は前回と違う感じで、とても興味深かったです。

今回のトレッキングでは緑が多く、珍しいキノコや野草を発見できました。またガイドの方が富士山の自然に関して、親切に教えて下さった為、とても楽しめました。

駆除活動については、多数の外来種が群生していて、しかも生えている場所が急斜面だったので、思いのほか手間取りました。また、活動の最中に、多くのゴミが自然を汚しているのを見て、やはりゴミの不法投棄は、厳重に禁止しなければならないと感じました。

今回の企画を通じ、富士山に限らず、身近な自然に対しても、関心を向けていこうと思いました。

法学部法律学科3年 正田 一成



河口湖畔で清掃をする



活動の後、全員で集合写真

10. エコキャップ回収ボランティア

1. 日程 2019年4月～2020年3月（毎月1回）
2. 場所 外濠校舎、富士見坂校舎、田町校舎 ペットボトル回収場所

3. 概要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ（以下VSP）は、2019年4月から2020年1月まで全9回、外濠校舎と富士見坂校舎にてエコキャップ回収ボランティアを実施し、延べ57名の学生が参加しました。

今年度は3月10日時点で合計323kgを回収、ワクチン本数で約220本になりました。回収したエコキャップは、2019年からVSP学生スタッフが自主的に探した無料で引き取りをしてもらえる会社、アルファジャパンさんに計5回引き取っていただきました。

2015年9月から始まったキャップ回収は、5年目を迎えました。この活動を始めた当初のメンバーは全員入れ替わりりましたが、毎月一般学生も参加して行っています。今年は、小さかった回収箱を大きな容器に替えたことで、多量のエコキャップを集めることが可能になりました。

参加者が集まりにくい時期もあり、回収の意義を考えた年でもあります。「持続して行っていく必要のある活動」「一般学生へのボランティア活動の周知に役立つ」との意見が出て、少しずつ、安定した参加者が集まるようになっていきます。

また、VSP田町の発足に伴い、あらたな活動としてデザイン工学部のメンバーが、田町校舎での回収を開始しました。学生への認知度アップを図るため、回収した量をポスターにして掲示したことも、新たな試みです。今後も毎月の活動を定期的に見直し、引き続き改善をしていきたいと思えます。

4. 参加学生の感想

僕はこのボランティア活動に参加して小さなことでも積み重ねることがすごく大切だと実感することができました。

活動に参加する前は、キャップが本当に集まるのか少しだけ疑問に思っていました。しかし、実際に回収を行ってみると多くのキャップが集まり、驚きました。一人一人の行動はキャップを分別するという小さなことでも、多くの人が行えば、命を救う大きなことにつながるのだとその時に強く実感しました。

エコキャップ回収活動は自分の意識を大きく変えてくれました。この活動で学んだことを生かし、これからも積極的にボランティア活動に参加したいです。

～学生スタッフVSP企画～
「エコキャップ回収ボランティア」募集！
VSPエコキャップ回収
6月20日（木）
12:25～12:55 お昼休み
★ 12:25 市ヶ谷ボランティアセンター集合

エコキャップを回収して、困っている人を助けよう！

まずは小さいボランティアから…
お申込みはボラセンまで。

●お申込は… 市ヶ谷ボランティアセンターへメール
または来室にて申込みください
●お問合せは…市ヶ谷ボランティアセンター（外濠校舎1階）
TEL:03-3264-9516 メール:ichigaya-vc@hosei.ac.jp



外濠校舎でのエコキャップ回収



田町校舎でも自主的に回収

11. 東京メトロ飯田橋駅ボランティア

※p.38「2019年度東京メトロ飯田橋駅ボランティア研修会」、p.80「目の不自由な方のサポートについて学ぼう」は、関連プログラムです。

1. 日程 毎月1回（定例会、準定例会）その他随時活動

2. 場所 東京メトロ飯田橋駅構内

3. 概要

東京メトロ飯田橋駅ボランティアは、駅を利用するにあたって全ての利用者に気持ちよく安全に駅を利用していただくために、駅構内の見守りを中心に活動を行っています。今年度は発足から3年目ということで、新たな取り組みを多く行いました。今年度は初めて活動見学会を行いました。活動に興味を持ってくれた方に駅に来ていただいて、実際の活動を見学していただきました。この見学会を研修会参加の条件としたことで、その後、継続して活動するメンバーが昨年に比べて多いと感じられました。また、既存メンバーとしては、自分の言葉でやりがいを伝えられる良い機会となりました。

6月に行った研修会では、初めてグループに分かれて行いました。このボランティアの”個人で好きな時間に活動できる”点はプラスでもありマイナスでもあるので、この研修会で仲間を作って、一緒に活動してもらうことが目的でした。毎月行う定例会には学年問わず様々なメンバーが集まって意見交換が出来たので、一定の効果は見られたと感じています。また、夏以降は嬉しいことに、多摩や小金井キャンパスから活動に来てくれる3期生の活躍が目立ちました。

4. 学生参加者数 32名（登録者数）

◎定例会参加者数一覧

定例会日程	参加者数
4月24日（水）	4名
5月24日（金）	6名
7月24日（水）	8名
9月25日（水）	3名
10月24日（木）	4名
11月22日（金）	5名
12月18日（水）	6名
1月24日（金）	6名
3月5日（木）	コロナウィルス感染防止のため中止

※その他、自主ボランティア活動者数（延べ）55名

5. 参加学生の感想

12月には、研修会でお招きした日本視覚障害者連合の三宅隆さんを再びお招きし、メトロボランティア主催として初めてのイベント（p.80「目の不自由な方のサポートについて～」参照）を行いました。視覚障害をお持ちの方に対するわたしたちのサポートの仕方や、日本における公共交通機関の現状など、さまざまな切り口から視覚障害という世界と私達の相関を学ぶことが出来ました。この講演会はメトロボランティアのメンバーに加えて一般の活動参加者も募ったことで、より広く本活動を知ってもらう機会にもなったかと思います。

来年度力を入れたい点として、学内での認知度を上げることが挙げられます。特に今年度活動してくれた3期生の力を活かして、この活動をより多角的な視野で工夫し、継続しやすい環境にできるよう取り組んでいきます。今後も見守りはもちろんのこと、駅利用者の方のニーズに合わせたご案内もできるよう、努力していきたいと考えております。

人間環境学部人間環境学科2年 皆川桃子



乗換案内をする様子



活動後はミーティング



外国人の方に声をかけてもらえるようにメンバーで腕章を作成



白杖をお持ちの方をご案内する

12. 第32回神田すすらん祭り

1. 日程 2019年5月25日(土)

2. 場所 神田神保町すすらん通り

3. 概要

学生スタッフ(VSPとチーム・オレンジ)は、神田すすらん通りにて開催された「すすらん祭り」で、VSPはポッチャ体験会、チーム・オレンジはオリジナル防災クイズカルタの実演の実施、囲碁研究会は一般来場者向けに対局のボランティア活動、また、一般のボランティア参加学生も受付、後片付けなどのボランティアに協力しました。

ブースは大勢の方に来ていただき、VSP、チーム・オレンジから各8名、その他学生ボランティア10名が参加し大変盛り上がりました。千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム <https://www.hosei.ac.jp/NEWS/newsrelease/180328.html> に所属する共立女子大、そして明治大学、専修大学など近隣の大学と共に、昨年に引き続き、本年も神田すすらんまつりに協力しました。

今年はパラリンピック競技であるポッチャについての認知度も高まっていて、様々な世代に楽しんでいただく事ができました。ブース内で防災クイズカルタでは、正解絵札の元となる解説を来場者に丁寧に説明する姿もあり、千代田区の地域貢献ボランティアの一助となりました。私たちは、ポッチャについての知識を学びながら、来場者にわかりやすく説明する、伝える素晴らしさを学ぶことができ、貴重な経験になりました。

来年夏には東京パラリンピックが行われます。大会に向け私たちもポッチャの普及活動、パラリンピック競技の普及活動にも取り組んでいきます。

VSP 企画学生スタッフ 法学部政治学科3年 藤山 雄多

4. 学生参加者数 29名

5. 参加学生の感想

これまでは防災啓発を目的としたイベントを中心に活動を行い、今回のすすらん祭りではどれくらいの方が防災に興味をもって足を運んでくれるのか不安でした。予想以上に多くの方に私たちの活動に注目してもらうことができました。これからも地域における防災啓発の活動に関しても進めていきたいと思えます。

チーム・オレンジ企画学生スタッフ キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 高木 祐輔

ポッチャは、体験してみると案外難しく、戦略も必要な奥の深い競技でした。私は初めてのボランティア活動で来場者にうまく説明できるか不安でしたが、最終的には多くの人にポッチャの魅力を伝えられたと思います。ポッチャを通して地域の人と交流できて、とてもいい機会になりました。また来年も参加したいです。

VSP 学生スタッフ 文学部史学科2年 坪井 雄大

当日はとても天気がよく、気温が高かったにも関わらず沢山の方が訪れてくれて楽しい時間を過ごすことができました。特に、初心者の子供たちが来てくれたのはとても嬉しかったです。囲碁人口は決して多くないのでこのようなボランティアを通じて囲碁の面白さをもっと広めていきたいと感じました。

デザイン工学部 建築学科2年 囲碁研究会 鈴木 清恵





チーム・オレンジ防災カルタ



一般の方との対局（囲碁研究会）



VSP ポッチャブースの様子



受付のボランティアの様子

13. 犬から教わる”幸せ“～ドッグセラピーの可能性を知ろう～

1. 日程 2019年5月27日(月)

2. 場所 外濠校舎5階526会議室

3. 概要

当日は、「NPO法人セラピードッグすまいるわん」より3名のトレーナーの方々と3匹のセラピードッグが来構し、代表理事の時田 真緒氏に講義をしていただきました。前半は講義、後半はワークショップと2部に分け、最後にグループワーク兼振り返りを行いました。「ドッグセラピー」について学びとともに、正しい知識を身に付け、理解を深めることを主な目的としました。

前半では、国際資格ドッグトレーナー等である時田氏にアニマルセラピーの定義や種類、歴史、日本と世界との比較などをご説明いただきました。特に、「日本の『ドッグセラピー』に対する一般の認識と世界標準との間には深刻な乖離があるので正しい理解を広めていくことが必要である」という今後の課題に関するお話に参加者は関心を寄せていました。

後半のワークショップでは、セラピードッグと実際に触れ合いました。会場は笑顔で溢れていました。その時間があつたことで効果を実体験できました。最後に「自分が理想とする人と犬が共生する社会」をテーマに、グループで意見交換をし、発表してもらいました。その意見や課題は、一人ひとりが企画の趣旨と目的に真摯に向き合えた事を実感しました。

今回は、「犬」という私たち人間の生活に身近な存在を取り上げたものでした。だからこそ一層、問題意識を持ちながら受講できたのではないかと思います。このプログラムにより現在の日本社会について、「犬」という観点から、見つめ直すきっかけを提供することができたのではないかと思います。

人間環境学部人間環境学科3年 岡部 琴美

4. 学生参加者数 29名

5. 参加学生の感想

セラピーとアクティブの違いや、科学的根拠をもった犬や動物とすごすことによって生まれる効果を第一線の方に教わる事ができて良かったです。犬権向上のためにもこれらの活動が広まってほしいし、自分も周りの犬に積極的に愛情をもって注ぐ等、まずはできることから始めていきたいと思っています。

文学部日本文学科4年 小泉 結菜



見つめ合うことでセラピー効果が得られる



指示を聞きながら犬に触れる

14. ブラインドサッカーから学ぶチームビルディング

1. 日程 2019年5月30日(木)

2. 場所 富士見坂体育館

3. 概要

ブラインドサッカーとは、アイマスクをつけ、音のなる特殊なボールを使うフットサルです。今回は、ブラインドサッカーを通じ、チームビルディングに必要なコミュニケーション法と、「見えない」ことを体で感じることを目的としました。

〔ワーク1〕見える人1名が、アイマスクを着用した人に、5メートル先のボールの場所を言葉だけで伝えました。「まっすぐ!」だけでなく、具体的に伝える大切さを学び、参加者全員がクリアできました。

〔ワーク2〕アイマスクをし、1月～6月生まれと、7月～12月生まれで、声と手のみで分かれ、それぞれの人数を数えるワークを行いました。ここでは個性が出て、大きな声でリーダーシップを取る学生と、その声を頼りに聞き役に回る学生に分かれました。

〔ワーク3〕アイマスクをし、血液型ごとに分かれました。グループ数が増えると自分のグループに合流できない人も現れました。声を出すタイミングに加え、聞くタイミング、何を声にするかを学びました。

〔ワーク4〕ワーク3を活かして、名前50音順に整理するというワークを行い、このあたりから、「まだ整理していない人いませんか?」など他人を気遣う言葉で、チームビルディングらしくなりました。

〔ワーク5〕4名が四隅に立ってパスを行い、アイマスクをした人が、制限時間内にボールに何回タッチできるかというワークを行い、どうすれば多くタッチできるかを議論し、改善点を見つけ出しました。

本プログラムを通して、障がい者と健常者の間の「見えない壁」を取り払い、共生に関心をもってもらうこと、自分らしさ、多様性を発揮しつつ、相互に関わりながら共通のゴールを達成するチームビルディングを学べたかと思えます。

4. 学生参加者数 15名

5. 参加学生の感想

視界が遮られるというのは予想以上に不安で、周りの仲間の声がいかに大きなものかを実感できました。ゲームを通じて初めて会った人と距離が近づいて良かったです。これを機にブラインドサッカーに注目したいと思いました。選手たちのスゴさも身をもって感じました。

経営学部経営学科1年 宮川 昇

「声を出す、声を聞く、思いやり」のキーワードは部活やグループワークなどのシーンでも役に立つと思いました。みんなが初めてのことをやっているのだから、最初から打ち解けてきたが、声を出す(=意見を発信)、声を聞く(=意見を受け入れる)、思いやりを意識していたというのが大きいと思いました。

グローバル教養学部グローバル教養学科2年 岡林 伊吹

市ヶ谷ボランティアセンター主催 オンラインプログラム
ブラインドサッカーを体験できます!
見えないというのが少し怖いけど、見えない中でどう伝えるかを考え、仲間と共通のゴールを達成しようとするチームビルディングを学びます。
ブラインドサッカーから学ぶ
チームビルディング
5月30日(木)
16:50~18:30 (5階) 富士見坂体育館
〇定員 30名
〇講師 特定非営利活動法人
日本ブラインドサッカー協会
申し込み方法: 市ヶ谷ボランティアセンター窓口にて申込書記入
問い合わせ: 市ヶ谷ボランティアセンター(外環校舎1階)
Tel: 03-3264-9516 Mail: ichigaya-vc@hosei.ac.jp



相手の合図に向けてボールを蹴る



声と手を頼りにグループをつくる

15. 外国人おもてなし語学ボランティア育成講座

1. 日程 2019年6月1日(土)、11月16日(土)

2. 場所 大内山校舎6階 Y604 教室

3. 概要

市ヶ谷ボランティアセンターは、東京都と共同で、「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座を実施しました。

この講座は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を見据え、外国人観光客等が安心して東京に滞在できる環境を整えるため、実施しており、今回は本学で7、8回目の実施となります。

今回は、市ヶ谷・小金井キャンパスから52名(6月)、35名(11月)の学生が参加しました。

毎回、参加応募者が多く集まる人気の講座で、参加学生は、活発な Role-Play で英語力アップと外国人へのおもてなしの基礎知識を学びました。最後は「おもてなし5か条」を参加者全員で考えました。講座終了後に登録証とバッジが配布され、法政大学から87名の「外国人おもてなし語学ボランティア」を輩出することができました。

2020年に向けた地域をあげてのおもてなし

外国人おもてなし
語学ボランティア育成講座

東京都の
外国人おもてなし
語学ボランティア
として登録されます。

2019年11月16日(土) 14:00~17:30
大内山校舎Y604教室
定員60名

お問い合わせ・申し込み
法政大学市ヶ谷ボランティアセンター
e-mail: ichigaya-vc @ hosei.ac.jp
http://www.hosei.ac.jp/volunteer/
TEL: 03-3264-9516

おもてなし5か条

1. 相手を受け入れる
2. さりげなく相手の求めること+ α (プラスアルファ) のおもてなし
3. 多文化の尊重
4. 無理しすぎない
5. 笑顔

4. 学生参加者数 87名(6月、11月合計)

5. 参加学生の感想

英語が上手く話せなくても、自分にできることはたくさんあることが分かりました。世界中の人々とコミュニケーションをとり、お手伝いができたら良いです。May I help you? をたくさん使いたいです! 国際文化学部国際文化学科2年 伊東 菜天子

グループワークがたくさん行われたので、周りの人とコミュニケーションができて楽しかったです。

「おもてなし」ってひと言では具体的なことはあまり分らなかったけれど、今回「相手を思う+ α のことをすること」を1つの意味にとらえることができたので次は行動につなげたいです。 文学部英文学科2年 加藤 萌子



グループワークを通じて会話に挑戦!



講義終了後、全員で集合写真

16. OluOlu 障がい児サッカー教室

1. 日 程 2019年6月2日(日)6月30日(日)、7月15日(月)、9月14日(土)、10月27日(日)、
12月22日(日)、2020年1月19日(日) ※10月12日(土)は台風により中止

2. 場 所 品川区特別支援学校体育館

3. 概 要

毎月1～2回(天候などにより異なる)品川区の公共施設で特定非営利活動法人 OluOlu の方々が運営を行っている CP サッカー・障がい児サッカー教室に参加しお手伝いさせていただきます。

OluOlu の CP サッカー・障がい児サッカー教室は、脳性まひ、もしくは手足に何らかの障がいがあり、独歩ができる小・中学生または、身体の障がいやダウン症、発達障害により運動が苦手で、独歩ができる小・中学生がスポーツを楽しみ、心も体も笑顔になれる場を提供することを目的としています。

私たちは、理学療法士や児童の発達に関する有識者であるコーチの方々と共に、子どもたちが安全に活動できるようサポートしたり、子どもたちと一緒に楽しんでサッカーをしています。

ランニング、準備体操、鬼ごっこでウォーミングアップの後、シュート練習や風船を使ったリフティングのあと、試合を行います。声を掛け合ったりハイタッチをしたりと子ども達がコミュニケーションを取りやすい工夫を大切にしています。定期的に参加することで、子ども達との繋がりや信頼関係が築くことがこの活動の重要な点です。

4. 学生参加者数 延べ 18 名

日 程	参 加 者 数
6月2日(日)	4名
6月30日(日)	4名
7月15日(月)	1名
9月14日(土)	2名
10月12日(土)	台風のため中止
10月27日(日)	3名
12月22日(日)	3名
1月19日(日)	1名

【OluOlu について】

Homepage: <https://www.oluolusports.org/>

FB: <https://www.facebook.com/oluolusports/>

5. 参加学生の感想

満身にスポーツを楽しむことが難しい子どもたちと、一緒にサッカーを楽しみたいと思い、参加をはじめました。何回か参加していくうちに子どもたちとの距離も近くなり、元気に走りまわっている姿や技術的にも精神的にも成長していく様子を見て、活動を続けるやりがいを感じています。

VSP 学生スタッフ 法学部法律学科1年 武田 大空

CP サッカー・障がい児サッカー教室のボランティアに参加してみて、感情が抑えられなかったり、気づいたらどこかに行ってしまったといった個性豊かな子どもたちの対応を通じて多くのことを学ぶことができ、元気をもらいました。これからも参加したいです。

デザイン工学部都市環境デザイン工学科1年 鴨 潤矢

何かの役に立てたらいいなと思い参加したボランティアだったのですが、お手伝いをしていく中で子ども達のエネルギッシュな行動に元気をもらいました。ボランティアに参加することで誰かの助けになるだけでなく、自分も多く得るものがあることを改めて実感することができたので良かったです。

デザイン工学部都市環境デザイン工学科1年 川上 健太



こどもたちと一緒に準備運動をする



こどもたちと一緒に試合をする



始まりはお互いに握手をしてから



お別れの挨拶で「みんなの輪」を作る

17. 北区学び場 Let's Study

※p.76「日本で暮らす外国人のサポートについて考えよう」は関連プログラムです。

1. 日 程 2019年7月28日(日)、10月27日(日)、
2020年1月12日(日)、2月16日(日) ※2019年10月13日(日)は台風のため中止

2. 場 所 北区学び場 Let's Study

3. 概 要

北区学び場 Let's Study の活動に月 1 回程度参加しています。毎週日曜日に、北区にある北とびあにて、日本語を母語としない、小学生から中学生の子どもたちに勉強を教えるボランティアを行います。教える科目は様々で、本人の希望する内容を行います。宿題であったりテスト勉強であったり、その日その人によって異なります。基本的に同じ子どもたちが来ますが、毎週来なくてはならないということはありません。来た時に担当した先生が簡単な報告書を書き、終わった後にも全体で共有をすることで、次に来てくれた時に担当する先生に繋がります。最近は先生の人数が生徒の人数より多い場合があるようです。

4. 学生参加者数 延べ9名

日 程	参 加 者 数
7月28日(日)	1名
10月27日(日)	2名
1月12日(日)	3名
2月16日(日)	3名

5. 参加学生の感想

毎月訪れる事で、その場にいる子どもたちを段々と覚えられたり雰囲気になれることができたり、お互いがリラックスしていられる環境になっていくのを感じました。

勉強を教える活動といっても学習塾とは異なり、もちろん勉強はきちんと教えますが、適度に雑談を挟んだり、休憩時間も設けてあり、楽しい雰囲気が進められています。居場所づくりとしての役割を強く感じました。子どもたちの中には勉強に乗り気ではない子もいますが、みんな来ることを楽しみに来ている様子で、自分と同じような境遇の子や優しく話を聞いてくれる学生や大人たちが居る空間は子どもたちにとって大きな居場所なのではないかと感じました。

私が中学 1 年生に英語を教えていた時に、役員の方がその子に『今後、英語がわかると思って話しかけられてしまう事があると思うよ。その時に話せないと困るから頑張ろうね。』と声をかけていたのが印象的でした。見た目が日本人でないと言うだけで英語が話せると思われてしまうなどの難しさもあるのだと気が付きました。

人間環境学部人間環境学科 1 年 荒巻 洋恵



学習サポートの様子



小学生に算数を教える様子

18. 荒川区 道あそびボランティア

1. 日 程 2019年6月8日(土)
2. 場 所 荒川区はっぴーもーる熊野駅前商店街
3. 概 要

はっぴーもーる熊野前商店街で行われた催しには、学生ボランティアスタッフ、一般応募した学生を含め11名が協力しました。また、他大学からのボランティアの方々とも協力して、イベントを盛り上げることができました。道あそびは、「だるまさんがころんだ」や「電車ごっこ」、「民族ダンス」、「シャボン玉・ペーゴマ」、「牛乳パックで作るフリスビーづくり」、「紙芝居」、「腹話術」など10個のブースに分かれ行われました。また遊びの中には昔遊びも含まれており、失われつつある遊びを知ってもらえるいい機会にもなりました。道遊びの雰囲気は、子どもばかりではなく保護者や地域の方々にも好評で、遊びを通して地域全体で交流できたと感じました。また、片づけの時にたくさんの子供が積極的にブラシを手に持ち、地面の汚れを落とす手伝いをしてくれました。掃除も遊びと同じように楽しんでいる様子が見受けられ、ボランティアの方々だけでなく地域全体で「道あそび」を作り上げていると実感しました。

今回初めてボランティアに参加しましたが、とても楽しく、充実した一日を送ることができました。小さな子どもに関わる事を緊張していたのですが、自然と一緒に楽しむことができました。「牛乳パックで作るフリスビーづくり」では真剣に創作作業に取り組んでいる子どもが多く、創作意欲に驚きました。また、あまり遊んだことのない「ペーゴマ」などもあり、自分自身でも新鮮さや、懐かしさを感じることができました。子どもや地域の方々との交流など貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。

文学部心理学科1年 三代 莉里子

4. 学生参加者数 11名

5. 参加学生の感想

今回、初めて地元荒川のボランティアに参加しました。私自身もNPO法人に所属して、各地にボランティアへ行ってきました。今までは、あまり当事者意識を持つことができなかったのですが、荒川の地域に暮らす地元民として、感慨深いものがありました。

みちあそびイベントの時は、商店街自体が明るく、元気で活気がありました。ある意味、イベント当日は、非日常の出来事です。だからこそ、その出来事を日常にしていきたいと思いました。このような新たな気づきが得られる大変良い活動で、参加して良かったと思いました。ありがとうございました。

経営学部経営学科3年 田口 瑛理



牛乳パックで作るフリスビー作り



路面の大きなオセロで遊ぶ

19. 2019年度東京メトロ飯田橋駅 ボランティア研修会

※p.27「東京メトロ飯田橋駅ボランティア」p.80「目の不自由な方のサポートについて学ぼう」は、関連プログラムです。

1. 日程 2019年6月8日(土)、15日(土)
2. 場所 外濠校舎5階526会議室
3. 概要

市ヶ谷ボランティアセンターと東京メトロは、2019年度も飯田橋駅構内の「見守る目」を強化するため、学生によるボランティア活動を継続して実施しています。

2017年6月にスタートしたこの活動は、大学と東京メトロとの連携により3年目を迎えています。

公益財団法人日本ケアフィット共育機構より講師を招き、座学と実技を交え、活動にあたっての基礎知識や注意点、心構えを学びました。

まず座学では、障がい者差別解消法の説明、障がいには個人差があること、サポートを不要としている人もいるので、必ず声がけをして確認して欲しいとお話がありました。また簡単な手話や英会話など教わり、ボランティアに活かせる技術を教えていただきました。

その後、車椅子利用者や視覚障がい者との接し方についての実技を行いました。車椅子の折り畳み方などの基本的な車椅子の取り扱い方法や、段差を乗り越える方法などを体験しました。

また視覚障がい者の気持ちを理解するために、視界が悪くなるゴーグルを装着し、どのように見えるかを確認してもらい、2人1組になり、1人が目を閉じ、もう1人に肘を掴んでもらい介添え歩行体験をしました。また、盲人会連合の方からは、視覚障がいの方への接し方をお話いただきました。

最後にペーパーテストを実施し、全員がサービス介助基礎検定の資格を取得することができました。

その後、市ヶ谷キャンパスから飯田橋駅に移動し、ホームに設置されているインターホンや、出口の場所などやトイレの場所を確認しました。既存の学生スタッフが3期生にむけて注意事項や心構えについて話してもらい研修会を終えました。

今年度は新たな試みとして、活動見学会を既存の学生スタッフが先行し、実際に駅ボランティアを見学してから研修会に臨んだこともあり、参加者の意欲の強さを感じることができました。

市ヶ谷ボランティアセンターは、今後も東京メトロ飯田橋駅ボランティアを「大学から一番近い地域貢献ボランティア」としてもり立てていきます。

4. 学生参加者数 28名

5. 参加学生の感想

昨年度に比べ、4人までのグループ席に先輩・後輩の分け隔てなく座ってもらったり、グループリーダーとなる1・2期生の頭文字のアルファベットを借用し、グループ名をメトロの路線に当てはめるなど、1・2期生と3期生の間で相互に楽しく学びが深められるよう、工夫を凝らしました。今後の活動に移るにあたっていかにして参加しやすい環境を作るかが、課題になるかと思っています。Googleフォーム等を活用の上、各メンバーの意見をできる限り汲み取って、フレキシブルに活動する形を目指したいと思っています。

文学部日本文学科2年 田中 康太

私は鉄道が好きという理由で、メトロボランティアへの参加を決めました。正直、人を助けるより、鉄道に関わることがしたいという気持ちが強かったのですが、研修会を受けてその気持ちに変化がありました。ボランティアを行う上での動きや知識を学び、実際に視覚障がい者の方の話を聞き、人を助けることの素晴らしさを学びました。この経験をこれからのボランティア活動に生かしていきたいです。

経済学部経済学科1年 田中 海翔



実際に体験することで、さまざまな人の視点を考え得ることができました。年配の方の視界や、車いすに乗っている感覚、目が見えない不安。自分で実感することで、相手の立場に立てました。そして、困っているかもしれない、と思うことで、お声かけする勇気を得ました。ご案内の仕方だけでなく、マインドも学ぶことができ、参加してよかったと思います。

文学部哲学科1年 蒲生 幸穂

研修会は3～4人の班に分かれて行き、ご年配の方、身体の不自由な方への対応についてのレクチャーを受けました。ご案内の練習では車椅子に乗って、どんな時に安心し、あるいは怖いと感じるのか、操作だけでなく「心のバリアフリー」を学べたのは、貴重な経験でした。新たなメンバーを迎え、メトロボランティアは3年目のスタートを切りました。今年度は活動の定着、そしてメンバー同士の連携を深めることにも注力していきたいと思っています。

人間環境学部人間環境学科2年 皆川 桃子



車いす介助の様子



駅構内を案内していただく



駅ボランティア認定証を受けとる



研修を終え集合写真

20. ユニバーサルマナー～多様性の時代に～

1. 日程 2019年6月10日(月)

2. 場所 外濠校舎5階526会議室

3. 概要

ユニバーサルマナーとは環境(ハード)ではなく、障がいがある方々に対してのこころづかい(ソフト)に焦点を置いたものです。今回は株式会社ミライロからお越し頂いた田中 理子氏を講師に迎えました。

初めは講義形式、後半は障がいがある方々はどのように社会を感じているのか、ということワークショップ形式で体験しました。

まず、ユニバーサルマナーについての概要や心づかいについての具体的な内容を学びました。身近な例では、プレゼンテーションなどで背景を黒にして、文字を白くすることがありますが、弱視の方への配慮であるそうです。この機能はスマホにも搭載されていることを知り、みんな驚きました。

ワークショップでは、実際に障がいがある方々の社会の感じ方を体験しました。2人ペアになり、1人がモニターに背を向けて、もう1人がモニターに映し出された文字を言葉に出さず、ジェスチャーのみでもう一方に伝えるゲームです。いざ聴覚に障がいがある方と同じ状況になると、なかなか難しく、伝わらないこともありました。

最後に、車いすの方の体験談から「ハードではなく、ハートが大事だ」といったお話がありました。私たちが持つ些細な優しさがその人にとって大きな喜びに代わるのだと思いました。

ユニバーサルマナーは、最初聞きなれない言葉でしたが、実際は私たちの身近に深く関わっていることが学べました。そして今回学び、体験したことが少しでもさまざまな方のお役に立てたらいいなと思いました。

法学部法律学科1年 清宮 幹太

4. 学生参加者数 7名

5. 参加学生の感想

「障がいは人にあるのではなく、環境にある」という概念を忘れないようにしたいです。「障がい者」という言葉があるとつい「人」にあると考えてしまいます。でも実際はそうではなく、周りの物、人、つまり環境にあるということをもっと自覚しないといけないと思いました。身近で、目が不自由な方が電車に乗ってきたとき、座席に案内するなど、自分ができることをできる範囲で考え、行動できたらと思います。「ユニバーサルマナー」大切にしたいです。

法学部政治学科2年 高橋 克典

思いの外、国際支援の考え方と通ずる点が多かったです。世界の見方が違うという点が一番の共通点でした。ユニバーサルマナーは、ユニバーサルデザインと同様に、すべての人が対象で、バリアをなくし、人に接しても良いのかなと思いました。

「違いより、同じを見つけるほうが難しい」という言葉は響きました。

法学部国際政治学科1年 高柳 茉佑



視覚障がいの方に絵の内容を説明する



他人と違う部分を探し出すワーク

21. 災害救援ボランティア講座

- 1. 日程 2019年6月15日、22日、29日（毎回土曜日）
- 2. 場所 大内山校舎4階Y402教室、本所防災館、市ケ谷総合体育館

3. 概要

市ケ谷ボランティアセンターでは、災害救援ボランティア推進委員会、東京防災救急協会、千代田区・千代田区社会福祉協議会のご協力のもと「災害救援ボランティア講座」を実施しました。

第1日目は、市ケ谷キャンパス大内山校舎Y402教室にて千代田区社会福祉協議会の取り組み、災害救援ボランティアの基本、被災地での安全衛生、防災対策の基本などを学びました。

第2日目は、本所防災館で災害模擬体験と実技などを行い、大学に戻り被災地での安全衛生、「災害時のチームビルディングとリーダーシップ（図上訓練など）」などのグループワークを行いました。

第3日目は、本学市ケ谷総合体育館柔道場にて、上級救命技術講習として応急手当活動について、実技を交え学びました。人工呼吸、AEDの使用法、災害時などでのけがの応急処置を含めた実践的な講習内容でした。

災害救援ボランティア講座は毎年行われており、全講座受講により、上級救命技能認定証、セーフティリーダー認定書が交付されます。市ケ谷ボランティアセンターでは、災害時などにリーダーとしてボランティア活動ができる学生の育成を目標にしています。

- 4. 学生参加者数 30名

5. 参加学生の感想

災害時、自分や周りの人の命を守る方法を学ぶ事ができ、良かったです。3週間の講座で学んだことを災害時に活かし、1人でも多くの人の命を守りたいです。ありがとうございました。



生命科学部環境応用化学科 3年 渡辺 柚衣

災害に関する座学だけでなく、グループワークや防災館での体験、救急救命の実習を通して、普段から防災に対して意識を高めていくことだけでなく、いざという時に誰にもなく自分自身が適切な行動を起こせることが如何に重要であるかを思い知らされました。

この講座で身につけた知識は、「災害大国」と呼ばれる日本に住んでいる私たちだからこそ学ぶべきことだと思います。地震や豪雨などの脅威が高まってきている現在、いつ自然災害が起きてでも自ら率先してとるべき行動を起こせるようにしていきたいです。

社会学部社会学科 3年 黒田 英里馨

市ケ谷ボランティアセンター
活動について
活動の報告



1日目、クロスロードゲームの様子



2日目、本所防災館での消火演習



3日目、上級救命技能講習 AEDを使う



3日目、講義終了後、全員で集合写真

22. 自閉症スペクトラム障がいについて考えよう

1. 日程 2019年6月19日(水)

2. 場所 外濠校舎5階526会議室

3. 概要

講座には9名の参加者があり、ワークショップや、講義を通して参加者、企画者ともに自閉症スペクトラム障がいについての知識を身につけることができました。

まずスタンブラリー形式のワークショップで、自閉症スペクトラム障がいのある方が何をすることが難しいのか参加者全員に体験していただきました。ワークショップの内容は、2枚重ねにした軍手をはめ、手の感覚が鈍くなっている状態ではさみを使ったり、パソコンで文字を入力したりしました。視野が狭くなるゴーグルを装着し、障害物の周りを歩くこともしました。次に模擬授業で騒がしい教室の中、集音器を付けて耳が過剰に聞こえる状態を再現し、ある大学生の1か月の予定のディクテーションを行いました。最後に特定非営利活動法人 ADDS の加藤愛理氏より講義をしていただきました。自閉症スペクトラム障がいについて、障がいを持った方との接し方などを学ぶことができ、私たちが今からできることを考えることで有意義な時間を過ごすことができました。

ワークショップや講義を通して、私たちの「当たり前」が当たり前でない人もいることを再発見することができました。自閉症スペクトラム障がいの特徴は健常者であっても該当するものもあり、自分たちにとって遠い存在でないことがわかりました。今後も「違うから面白い」という意識を持っていただけるような活動を行っていきます。

ボランティアセンター学生スタッフ (VSP)
キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科1年 高師 桜子

4. 学生参加者数 9名

5. 参加学生の感想

・企画に参加する前は自閉症スペクトラム障がいについてよく分からず、心の病気？引きこもりの人？少数派なのではないか？育つ環境が原因？といった偏見を持っていましたが、身体的な障がいでもあることや、身近に存在する可能性があること、先天性であることなどを知って、もし今後自閉症の人に出会ったら、壁を作らず、できる限り理解してあげたいと思いました。

・視野を狭くすることで、これまで人と会話する際に自分がいかに非言語コミュニケーション(表情)を手がかりとしてきたのかに気づきました。人の表情を確認するためには、その人の方へ顔を向ける必要があり、このことは会話のテンポ低下へもつながると考えました。障がいを持った人への支援がより豊かに自然にできるような社会になってほしいとあらためて思いました。



障がいのある人をサポートする体験



集音器を付けてのディクテーション



23. 被災地で働くを考える

1. 日程 2019年6月24日(月)

2. 場所 外濠校舎5階526会議室

3. 概要

今回の講義では、前半は講師にはチーム・オレンジの現地活動にご協力いただいている遠野 山・里・暮らしネットワークの田村氏を招き、大学時代での活動、学びから今までのキャリアに至るまで実体験を講演いただきました。

東京に住みながら、東京を飛び出して地方に移り住み、自ら道を切り開きキャリアを形成してきた田村氏の言葉を学生たちが真剣に聞いている姿が印象的でした。後半はチーム・オレンジのOG2名に講師として登壇いただき、現在の仕事や研究内容、大学時代に行った被災地支援の活動で経験したことが卒業してからどのように活かしているかを講演いただきました。後輩への力強いメッセージはこれから就職活動を控える3年生にとっては貴重な経験となったようです。

ボランティア活動は相手のために行う活動ではありますが、ボランティアをした側も大きく成長することができます。大学の経験を通して社会で活躍されている卒業生2名の講演は、学生にとってもボランティア活動について考える貴重な体験になったと思います。

4. 学生参加者数 26名

5. 参加学生の感想

実際に被災地訪問や、東北での就職も考えている自分にとっては身近なテーマで「学生が東北に来てくれるだけでボランティアになっている」という言葉は現地でもよく耳にしますが、就職活動でも活かせそうな視点だと感じました。

個人的に、田村さんが働く土地も内容も、自分の志望と重なる部分があるので、田村さんの働き方を目標として今後とも取り組んでいきたいと思います。

チーム・オレンジ 副代表 文学部地理学科3年 木全 俊介

今年の田村さんの講演はキャリアデザインという新しいテーマで、自分の人生について見つめ直すきっかけとなりました。OGの方の話からは、チーオレで学んだことは社会でも活きるということを知り、少し日々の活動に自信ができました(笑)

一つ改善点があるとすれば、少し終了が遅くなってしまったことです。次回からは、OB OGの方の講演は別日にしてもいいのかなと思いました。大変勉強になった企画でした。

文学部地理学科3年 伊達 隼人

山里ネットさんの活動を深く知ることが出来て良かったです。田村さんのキャリアのお話には、自分自身が1ターン就職を考えているのでとても興味を持ってました。また、チーオレ OGのお二人のお話はチーオレの活動をどのようにされていたのか、就職や進学にどのように活かしたのかがわかり、とても参考になりました。

法学部政治学科3年 長嶋 真綾



質問に答えるチーム・オレンジ OB と山里ネットの田村さん



多くの学生が熱心に耳を傾けた

24. 頭で考えるな。身体で感じる。 ゴールボール体験教室

1. 日程 2019年7月2日(火)

2. 場所 富士見坂体育館

3. 概要

ゴールボールは、戦争で目に障がいを負った軍人のリハビリを目的として考えられたプログラムをスポーツにアレンジしたものです。選手全員が目隠しをし、3対3で行う球技です。

視覚障がいの有無に関わらず、目隠しをすることによって同じ条件で競技の体験が可能になるので、視覚障がい者の身体の動かし方や考え方を理解できます。また、ゴールボールは2020年東京パラリンピックの正式種目であり、一般学生の東京2020大会への関心を高めることも目的として、今回の企画を実施しました。世界選手権にも参加し、日本代表で主将を務める信澤用秀(のぶさわようしゅう)氏と、国際審判員で東京都ゴールボール連絡協議会の小野和人氏に講演していただきました。ルールについての説明だけでなく、ゴールボールを取り巻く環境や視覚障がいを持つ方の私生活に関することまで貴重なお話を伺うことができました。

企画1: ゴールボールと東京パラリンピックの説明を国際審判員の小野さんにいただきました。

企画2: ゴールボールの形、ボールの重さ、手触りを確認する為に対面のパス交換を行いました。

企画3: パス交換でボールに慣れた後にアイマスクで視界を塞ぎ、見えない中でどの様の行動や思考について学びました。

企画4: これらの活動を行った後に、実際に3対3のゲームを行いました。

プログラムを通して、ゴールボールについての楽しさや難しさ理解や関心が深まりました。また、実際に目隠しをして競技を体験することで、「目が見えない」ということを肌で感じ、東京2020やパラスポーツ、障がいについての理解を深めるきっかけになったのではないかと思います。

4. 学生参加者数 17名

5. 参加学生の感想

ゴーグルをつけてディフェンスをすると、ボールが近づいてくるのが怖かったが、思ったよりも鈴の音で転がってくるのが分かっておもしろかったです。チームメイトの位置を把握したり、パスを出すために手を叩いたり名前を呼んで位置を伝えました。はっきりと伝えないと、意思疎通ができないこと、音で伝える大切さがわかりました。

スポーツ健康学部スポーツ健康学科1年 小林 千夏

I'm an exchange student from Taiwan, this is my first time to play goalball. Actually, there isn't any sports like this in Taiwan. I felt new and interesting in the game, hoping that I can play it again in the future!

留学生 時遠 陳

目が見えない中で音だけを頼りにボールを探したり、投げたりするのはとても難しかったです、非常に良い体験になりました。今までテレビの番組等でしか知りませんでしたが、今後生の試合や機会があればパラリンピックで応援したいと思いました。

人間環境学部人間環境学科2年 河野 慎平





ボールを止める姿勢を教わる



音を頼りにボールの方向へ



学生スタッフ VSP メンバーからの挨拶



メンバー全員で

25. [千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム] いざという時あなたならどうしますか～避難所体験

- 1. 日程 2019年7月6日(土)
- 2. 場所 大内山校舎 8階 Y803、804 教室
- 3. 概要

この企画は、避難所で役に立つ知識、震災関連死などの問題についての知識を得ながら、避難所の運営の難しさなどを理解することを目的としています。

実際に、地震によって被災した地域の避難所の運営者をゲームで体験する「避難所運営ゲーム」を行いました。まず、プレイ時間を1時間として、ある程度ゲームを進めた状態からスタートし、次に、開始時間を午前中から午後にし、土曜日2限のある人でも参加しやすいようにしました。また、今回も非常食の試食を行いました。

プレイ時間を短くしたことで、参加者の考えたことを共有する時間を多くとることができました。避難所運営ゲームは今回で私が行うのは4回目ですが、何度行ってもあらゆる意見や違った考え方が出てきます。このような意見や考え方を取りこぼさず、次回の企画をする際、さらにいいものにするために活かしていきたいと思っています。

チーム・オレンジ企画学生スタッフ 文学部地理学科3年 鬼頭 雅也

- 4. 学生参加者数 15名

5. 企画学生の感想

途中まで進めておいた分、ゲーム実践の時間が長いなど感じることはありませんでした。初めて避難所運営ゲームを行った人の考え方が新鮮でした。また、全体でどう配置したか理由を聞くことで違う視点も得られ、どれを優先したら良いかなどを考えるきっかけになったのも良かったです。

文学部英文学科3年 植松 秀美

各班 5、6 人と少なかったため、1人1人が積極的に参加できた。最初はイベントの処理に時間がかかり悩んでいたが、次第に判断が早くなっていました。一般参加者が少なかったが、チーム・オレンジの1年生に参加してもらって良かったです。来年度行う場合、参加者をどう増やすかが課題であると思います。

法学部法律学科2年 内田 彩音

今回は各カード1分という制限時間があったため、迅速な避難所運営を心掛けてゲームを行うことができました。実際の避難所ではより多くの要望が出て対応も難しくなると思います。また、マスコミなどの対応も大変だと感じました。それらを予測し適切に対処できるように考え、地域の力になれるように勉強していきたいです。

文学部哲学科2年 山野 亜美

6. 参加学生の感想

日本へ来たばかりなので、地震に関する恐怖が大きかったのですが、今回のこの機会を通じ避難所の運営、いろいろな状況などが考えられてとても役に立ちました。恥ずかしいのですが、私の近くの避難所がどこにあるのか、まだ分からずにいました。今からでも避難所の位置、避難方法などいろいろ調べるつもりです。

法学部政治学科 1年(留学生) 金 秀珍





運営ゲームについて説明する



運営ゲームに取り組む



非常食の試食の準備



学生スタッフが選んだ非常食を試食

26. 防災ゲーム Day

※p.51「千代田区未来の防災リーダー」も同様にチーム・オレンジオリジナル防災カルタを使った企画です。

1. 日 程 2019年7月7日(日)
2. 場 所 有明臨海広域防災公園そなエリア東京
3. 概 要

ボランティアセンター学生スタッフ(チーム・オレンジ)が、一般社団法人防災教育普及協会主催イベント「防災ゲームDay2019in そなエリア東京」で、開発した防災クイズカルタの展示及びブース体験をさせていただきました。

このイベントは、東京都教育委員会の後援を得て、防災教育教材やプログラムの普及啓発を目的とし、毎年実施されています。

今回のブース体験では、多くの子どもたちや、ツアーでお越しになっていた団体の中でカルタに興味を持っていただいた方々に加えて、KDDIの方やUR コミュニティーなど出展していた企業様、そして老人ホームや地域コミュニティーの方々など、チーム・オレンジのカルタ活動とのコラボや依頼を考えている方がいらっしやり、本来の防災啓発活動に加えて、他の団体とのコネクションをつくることもできたのではないかと思います。

今回はブースのみでの参加でしたが、来場者の反響もよかったので、来年は体験会での参加も視野に入れていきたいと思います。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 高木 祐輔

4. 学生参加者数 5名

5. 参加学生の感想

防災ゲームDayは防災クイズカルタを広める良い機会でした。他の団体のゲームにも、参加させていただき防災カルタと比較しながら、ゲームをより良いものにするためにこういったものを取り入れるべきか参考にさせていただくことができました。

文学部哲学学科2年 山野 亜美

今回初めて参加して、子ども達だけでなく、企業の方や他のボランティア団体の方々にも、防災クイズカルタを知っていただける良い機会だったと思いました。他の団体の展示等から刺激を受けたので、これからの活動に生かしていきたいです!

法学部国際政治学科1年 小林 都香

まずは、参加人数が少ないことに驚き、この企画が有意義なものか不安になりました。ただ、普段なら絶対やらないことだったので、いざというときに必要な危機管理能力を高めるという点で、非常に役立つものでした。 法学部法律学科1年 柏 和真



訪れた子ども達にカルタを教える様子



防災カルタの展示ブースの前で

27. 「主体性を育む」ファシリテーション講座

1. 日程 2019年7月8日(月)
2. 場所 外濠校舎5階526会議室
3. 概要

ファシリテーションとは英単語の facilitate の名詞形であり、「促進する、〈事を〉容易にする」という意味です。ファシリテーションスキルは災害現場や企業、まちづくりなど様々な現場で活用されます。本講座では「主体性」をテーマにし、特に会議などの話し合いの場に特化した「主体性の育み方」について学びました。また法政大学兼任講師であり、NPO 法人日本ファシリテーション協会フェローである鈴木まり子氏を講師に迎えました。

本講座は「参加型」であることが特徴的でした。まずオリエンテーションからはじまり、講座参加にあたっての説明がありました。

その後「チェックイン」を行いました。初めは2人で、次に円になり全員で自己紹介を行いました。この時間のスキルは①チェックイン②グループサイズです。「チェックイン」とは会議などの話し合いの場で、参加者全員が話す機会を設けることが目的です。また、これは「話す」ことではなく「聴く」ことに注力して行います。

次に「グループサイズ」は、話す場の人数を変えるというものです。人数が少ないと人は距離が縮まり、本音で話しやすくなります。また、グループサイズが小さくなればなるほど人は強制的に話さざるを得なくなります。はじめに2人で自己紹介を行ったことがこれに当たります。

これ以外にもファシリテーションスキル・ファシリテーターとは何か、どういったことを行くと「主体性を育む」上で効果的なのか、ということを実際に体験を通して学びました。

チーム・オレンジ学生スタッフ 人間環境学部 人間環境学科 3年 小長井 愛

4. 学生参加者数 15名

5. 参加学生の感想

自分のサークルなどの活動でも、短いアイスブレイクが効果的だと思いました。椅子の並べ方や、人数を変えてみるなどをして、距離を近くするとより話しやすく、会議も進むのだと思いました。私もチーム・オレンジのミーティングに参加することだけが目的になってしまっているので、この講座を受けて反省しました。

文学部 地理学科 2年 中野 ゆかり

話し合いの主役となるのは、進める側ではなく、参加者、出席者である、という考えを持っておくことが重要な事だと感じました。そのために椅子の配置を工夫したり、意見に対する「なぜ」にこだわったり、終わる時間を明確にしたりと視野を広げて、心遣いや柔軟な対応を絶やさないことが大切だと感じました。

法学部政治学科 2年 高橋 克典



円になってチェックイン



話し合いを「見える化」する

28. 千代田区未来の防災リーダー

※p.49「防災ゲーム Day」も同様にチーム・オレンジオリジナル防災カルタを使った企画です。

1. 日 程 2019年8月3日(土)

2. 場 所 千代田区役所区民ホール

3. 概 要

このイベントは、千代田区で、地震体験車による地震体験、AR(防災シミュレーション)などを通して、将来に役立つ防災に関する知識を身につけること、そして災害時にはその知識を活かせるような人材を育成することを目的として実施されました。また、チーム・オレンジの学生が中心となって、防災クイズカルタを行いました。

この養成講座には、小学生1年~4年の生徒20名のほか、保護者の方も一緒に参加していただきました。

防災クイズカルタは、身近な問題から、保護者の方でも難しい問題もありますが、言葉ではなく、絵が描かれていることから、低学年の生徒も十分に楽しみながら、防災教育に触れていただき、短い時間でしたが、閉会時には、「カルタが楽しかった。」などの声をいただきました。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 高木 祐輔

4. 学生参加者数 10名

5. 参加学生の感想

小学生低学年の子が多く、とても楽しそうにカルタをしてくれたのが嬉しくて、カルタをした甲斐があったなと思います。親御さん達も気づきが多かったらしく、大人の方も楽しんでいただけたのかなと思います。楽しくゲーム感覚で防災に関する知識を学び、少しでも役に立ててくれていたらいいなと思います。

法学部法律学科1年 福田 桃子

イベントに参加した子どもたちが関心を持って参加する姿が印象的でした。防災クイズカルタでは、大人より、子どもの方が積極的に参加してくれました。イベントに参加した子どもだけでなく、私自身も千代田区が防災に対してどのような取り組みをしているのかがわかり良かったです。地震体験車をアトラクションのように体験する子どもが多くいて、わんぱくさに驚きました。

人間環境学部人間環境学科1年 横山 萌

僕が最も印象に残っていることは子ども達がとても楽しそうに防災カルタに取り組んでくれた点です。

子どもを対象としてカルタをやったことがなかったので不安でしたが、子ども達はチーム・オレンジのカルタでとても楽しそうに防災について学んでくれたので本当に嬉しく感じ、ボランティアをやってよかったと思いました。

今回のボランティアを通して、知らなかった防災の知識を学べ、自分自身も成長することができました。

これからも様々なボランティアに参加し、人の笑顔をつくったり人の力になったりしながら成長していきたいと思います。

デザイン工学部建築学科1年 遠山 開



洪水を想定したAR体験



防災カルタに夢中になる子どもたち

29. 夏の大掃除・3キャンパス清掃

- 1. 日程 2019年8月8日(木)
- 2. 場所 市ヶ谷キャンパス、多摩キャンパス、小金井キャンパス
- 3. 概要

本活動では、普段から定期的実施している市ヶ谷キャンパス周辺に加え、多摩・小金井の3キャンパスをまわる清掃ボランティア活動を行いました。当日は快晴の空のもとで参加者は楽しみながら熱心にゴミ拾いを行いました。多摩・小金井キャンパスでは清掃活動に加えて、職員さんにキャンパス内の案内をしていただき、参加した学生にとって今まで知らなかった法政大学について新しい発見ができる良い機会となりました。

清掃活動を通して、タバコやペットボトルのポイ捨てが多いことと、注意深く探さないと見つからない意外な場所にもゴミが隠れているということが印象的でした。また、真夏の外での広範囲な清掃活動ということもあり、次回をもっと涼しい時期にもっと多くの人数で実施できたら良かったです。

各キャンパスのボランティアセンターの方々、ご協力ありがとうございました。
デザイン工学部都市環境デザイン工学科 1年 鴨 潤矢

- 4. 学生参加者数 11名

5. 参加学生の感想

今回の清掃に参加して、キャンパスの掃除を行ったことで、法政大学の「ポイ捨ての実態」を目の当たりにして、危機意識を得ました。この活動に参加したことが、普段の学生生活で気に留めないような、身近な問題に気がつくキッカケになりました。今回の活動で得た「気づき」を自らの生活にも取り入れ、よりよい学内環境を整える一員としての意識を高めたいと思います。

経営学部経営学科 1年 五味 祥紀

猛暑日の中での活動で、全身が汗でビショビショになりましたが、かなりの量のゴミが回収できたので達成感がありました。一番回収したのはタバコの吸殻だったので、ポイ捨てするのではなくしっかりと灰皿に捨てて貰いたいと感じました。また各キャンパスの特徴について、ゴミ拾いを通じて知ることができました。

法学部法律学科 1年 清宮 幹太

普段使っているキャンパスを含め、1日で全てのキャンパスを回り清掃を行うことで大学に対する一層の愛着を持つことができました。あまり意識することのないゴミ拾いに着眼することで、普段スポットが当たらなくとも大学をきれいに保ってくださる清掃員の方々への感謝や学生のマナーや配慮の大切さを感じました。

経済学部国際経済学科 4年 田中 雅也



市ヶ谷外濠公園を清掃する様子



多摩キャンパスでの清掃

30. 気仙沼児童館ボランティア

1. 日程 2019年8月6日(火)～8日(木)

2. 場所 宮城県気仙沼児童センター

3. 概要

現地の子どもたちと楽しく防災の知識を深めることを目的に、毎年夏と冬の長期休暇にこの活動を行っています。

今回は多くの学生が参加することができたので、子どもたちとの交流をメインに企画を進めて行いました。子どもたちと共に遊びやゲームをすることによって親密になることができれば、恒例の防災クイズゲームも盛り上がるのではないかと考えたためです。実際、カルタを広げるとすぐに小学校低学年の子どもたちが集まってきてイベントが始まるのを待っていてくれました。しかし高学年の子どもたちはあまり関心がなさそうな様子でした。今後の課題として防災クイズカルタについて、興味を惹きつける策も考えていく必要があると感じました。

さらに前回に引き続き、パラリンピックの種目であるポッチャも行い、こちらは多くの子どもが興味を持ってくれました。学生も競技に参加し白熱した試合を見せてくれました。

今回は、1年生が多く参加してくれました。カルタの作成者では無い1年生の感想や意見をチーム・オレンジ内で共有し、防災クイズカルタをより良いものにしていきたいと思います。

文学部哲学科2年 山野 亜美

4. 学生参加者数 11名

5. 参加学生の感想

子どもは非常に元気だったが、各自なりのアプローチで接していた。カルタは1年生が中心となって読み手に加わったり、子どもと一緒に札を取ったりしていました。とても頼もしい1年生だと感じました。ポッチャも想定以上に盛り上がったので、次回以降も継続できればと思います。

文学部史学科2年 小島 悠輔

カルタは小学校低学年の子から「難しい」と言われたけれど、頑張って1枚でも多く取ろうと楽しんでくれていて良かったです。2日間という短い時間だったけれど、別れが惜しくなるくらい素晴らしい時間を過ごすことができました。

法学部1年 間宮 理子

児童館の子どもと対面した時には、戸惑う部分もありましたが、最後には名前を覚えてくれるほど距離を縮めることができ、とても嬉しかったです。そのおかげで、防災クイズカルタもすることができ、本来の訪問した目的も果たすことができました。とても良い思い出を残すことができたと思います。

法学部国際政治学科1年 橋本 琴音



防災クイズカルタを行う



ポッチャを楽しむ子供たち

31. 第10回外濠市民塾「外濠^{しゅんせつ}浚渫工事見学会」

※p.66「外濠の環境をまもる～浚渫工事について知り環境問題について学ぶ」の関連イベントです。

1. 日程 2019年8月7日(水)

2. 場所 大内山校舎8階 Y804 教室、外濠 新見附橋～飯田橋

3. 概要

10月9日(水)に予定されている学生スタッフ企画「外濠の環境をまもる～浚渫工事について知り環境問題について学ぶ」をふまえ、事前に外濠の浚渫現場を見たいという希望があり、見学会に参加させていただきました。

この講座はエコ地域デザイン研究センター協力のもと、外濠市民塾実行員会主催で行われました。外濠を取り巻く法政大学をはじめ、東京理科大学、日本大学、中央大学などの大学や近隣の企業の協力のもと、開催されています。外濠市民塾の学生スタッフの誘導で大学前から飯田橋を経由し、小石川橋の浚渫土積込状況を実際に見学し、大学に戻りました。猛暑の中でしたので、学生は日陰への移動や冷媒を使用して行動するなどに気をつけていました。

実際に浚渫現場を見ると、車両が入れない、水源がない、潮の満ち引きと深い関係がある、などを聞くことができ、いつもの風景を別の視点から見ることもでき、身近な外濠の浚渫工事について新たな発見がありました。

4. 学生参加者数 4名

5. 参加学生の感想

いつも何気なく通っている外濠でしたが、見学していると、普通の河川よりも上から眺めているだけで近くに行くことができないという距離感を感じました。

もっと、無料で安全性があり、川に近づける場所ができれば、外濠の賑わいもよくなると思いました。また、パイプだけでヘドロを運搬している建設業さんの技術に驚きました。いつもはできないことを見学を通して体感することができました。

文学部地理学科1年 三村 優奈

外濠にも生態系が存在していたことに驚きました。また、浚渫(しゅんせつ)などについて、一般の人が頭の片隅に置いておけるようにすることが大切なのかなと思いました。また、そうするために自分たちが何をすればいいのか考えて行動していきたいと参加をしてみたいと思いました。

デザイン工学部都市環境学科1年 川上 健太

外濠の構造や歴史的背景、地域社会との関わりなど、多角的な視野からの考察を深められた。街中の見落としがちな風景にも、関心を持って様々な見方をすることが、思わぬ発見をもたらす事を学べた。また、浚渫工事は決して世間から注目をされてきたものではないが、外濠市民塾に参加したことで、その影の努力が我々市民の豊かな生活を成り立たせているのだと知り、ありがたさを実感するきっかけとなった。

経営学部経営学科1年 五味 祥紀



現地でポンプ浚渫工事について関係者から説明を受ける



浚渫工事の下流、土運船で汚泥を運ぶ

32. [キリン福祉財団助成事業] 2019年度東北被災地ボランティアツアー

1. 日程 2019年8月19日(月)～23日(金)、8月22日(木)～8月26日(月)

2. 場所 岩手県

3. 概要

NPO 法人遠野山・里・暮らしネットワークの協力により法政大学ボランティアセンター、私たち学生スタッフ「チーム・オレンジ」が企画し、震災直後から8年間、毎年40名前後の学生が岩手県遠野市を拠点とした東北被災地ボランティアを行っています。

学生が自ら現地に赴くことで、メディアからは伝えられない被災地の現状や課題を知り、住民の声や経験を聞くことで、防災意識も高めることができます。また、地方自治体が抱える低所得化や少子高齢化、住民減少などの社会問題を直に学ぶことで、復興支援の在り方や地方自治体の活性化について考える機会を得ることができます。

今年度の本プログラムにおけるキーワードは「変化」でした。震災から8年経ち、東日本大震災の記憶を持つ学生も減りつつある現在、様々な試みを行いました。具体的には、学生の被災地ボランティアのニーズを知るために、アンケートを行ったり、事前説明会で自然地理、自然災害学の先生をお呼びし、地震について学び直したり、学生が被災地に行くことの意義をきちんと説明、現地活動においても様々な試みをしました。現地では、公営住宅でコミュニケーションをとりながらのハーバリウム作り体験や、軽作業を1日行ったり、訪れる地域をあえて限定させるなど、工夫をしました。

本プログラムは、ボランティアセンター学生スタッフのチーム・オレンジが中心となって、ボランティアの内容や活動意義について事前説明会を実施し、帰着後には、このプログラムにおける成果や感想の報告会を実施しました。

また、法政大学の被災地支援の取り組みをまとめた「チーオレ新聞」を作成し、ボランティア先で配布し、現地NPO法人とミーティングを重ね活動内容を検討するなどして、大学の被災地支援の取り組みの活性化に大きく貢献しました。

チーム・オレンジ企画学生スタッフ 法学部政治学科3年 白川 直樹

4. 学生参加者数 40名

5. 企画学生の感想

震災から8年が経過し、私たちができることは、震災を忘れないこと、そして現地で学んだことを東京に持ち帰り周りの人に伝えることです。震災を過去のものと風化させず、いつか起こると言われている首都直下型地震や南海トラフに備えること。これからの時代を担っていく私たち学生にしかできないことがまだまだあると思います。今回のボランティア活動を通して、課題がたくさん見つかったのでそれを無駄にすることなく活かし、来年以降もより良い活動にしていきます。

最後に現地でお世話になった方々、山里ネットのスタッフの皆様、助成金の援助をいただいたキリン財団様、法政大学の教職員の方々など、遠野プロジェクトに関わってくださった全ての方に心から感謝を申し上げます。

法学部法律学科2年 内田 彩音

最も印象に残ったのが木こりである芳賀さんの震災講話です。事実として知ったつもりになっていましたが、被災された方々は自分の想像をはるかに超える出来事を経験したのだと改めて思いました。

ボランティアでは、こちらが何か力になるつもりでいますが、逆に勉強になったり元氣や勇気をもらったりすることが多く、「不思議なものだな」と思いました。それと同時にボランティアは敷居が高いと思っている人に、このような素晴らしい経験をしてもらいたいです。

文学部英文学科2年 中辻 佳菜



行って見て本当によかった、行って見ないと得られない知識があったし、人々の様子は実際に見て見ないとわからないと、とても実感しました。私の被災地の記憶は津波が押し寄せて家や施設が瓦礫となって流れているという衝撃的な映像で止まっています。でも、今回行って見て、町にはショッピングモールがあったり、思っていたより住宅が立ち並んでいたりと現状は大きく異なり驚きました。また、被災地に必要なことはコミュニティ支援なのだと気づかされました。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 柏木 玲美

遠野市から陸前高田市に移動する際、あたりが何も無いところに出た景色が印象的でした。語り部の釘子さんのお話で、盛り土が終わるまで企業や商業施設が来れないということを知り、それまで若者などが働き口を求め都市部へ流出が続いていくのだと思いました。

しかし「みんなが集まる」ところがあればそれが復興なんだという言葉聞いた際には、そのすぐ前向きな姿勢に驚きました。また自分も頑張らなくてはと思いました。

法学部法律学科4年 高田 輝



公営住宅での集合写真（40、41次隊）



公営住宅でお年寄りとコミュニケーションを取りながらのボッチャ（38、39次隊）



大槌町での震災講話（40、41次隊）



ネギ畑でのボランティア（38、39次隊）

33. [千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム] 高齢者と音楽を通して楽しく交流しよう！ in かがやきプラザ(学生スタッフVSP企画)

1. 日程 2019年8月27日(火)
 2. 場所 千代田区立高齢者総合サポートセンター かがやきプラザ
 3. 概要

今回のボランティアでは楽器演奏や合唱を通じ、地域の高齢者の方々と交流しました。「千代田区内隣接大学の高等連携強化コンソーシアム」を構成する他大学の学生(共立女子大2名)も企画に加わりました。

当企画は学生と高齢者が関わる機会を双方に提供し、かがやきプラザが行っている多世代交流事業の一環としても機能しました。曲目はNHK朝の連続テレビ小説(以下朝ドラ)主題歌、テーマ曲、挿入歌の中から選曲し、高齢者も学生も多くの人が知っているような曲が詰まった音楽会になるようにしました。

「大学生と振り返る!朝ドラテーマ曲」をタイトルにし、「おしん」のテーマから「優しいあの子」(『なつぞら』主題歌)まで、全8曲を演奏しました。そのうち4曲は学生のピアノや管・弦楽器による演奏、残り4曲は学生の伴奏に合わせて会場にいる参加者全員で歌をうたいました。また、「365日の紙飛行機」ではサビの部分に手振りを取り入れ、全員で振りを練習したときには和気あいあいとした雰囲気になりました。

経営学部市場経営学科2年 後藤 優音

4. 学生参加者数 18名(共立女子大2名)

5. 企画学生の感想

高齢者向けの企画に参加するのは初めてで、また普段あまり高齢者の方と接することもないので、不安でしたが、沢山の暖かいお言葉をいただくことができ、地域と学生を繋ぐ企画として成功したと思っています。3年前に始まった音楽ボランティア企画も、4回目を迎え、回を経る毎に進化を遂げています。大学の垣根を越え、地域の方々と学生とのコミュニケーションを取れる機会として、更に発展させることができるよう努めていきたいと思っています。

経営学部経営学科3年 菅 結菜

人生の大先輩方と触れ合うことができ、貴重な経験をすることができました。音楽ボランティアは今回が初めてだったのですが、無事やり遂げることができ、お褒めの言葉もいただき嬉しかったです。また、自分の考えた振り付けで皆さんと交流し、やりがいを感じることができました。音楽を通じた交流の素晴らしさを知ることができたので、このような企画を継続して行ってほしいなと感じています。

経営学部経営学科1年 富岡 美友

高年齢者と音楽を通して楽しく交流しよう!

演奏が得意な学生はもちろん!
演奏はできなくてもお年寄りの方々と一緒に歌を歌ってくれる学生や、会を一緒に盛り上げてくれる学生を募集します! 募集人数: 12名

日時: 8月27日(火) 14:00~15:00
 → 当日 10:30 にボランティアセンター集合

場所: 千代田区立高齢者総合サポートセンター
 かがやきプラザ1階 ひだまりホール

当日の学生

10:30 集合、11~15:00 開演	
12:30 大学生出演	12:45 高齢者出演
13:45 朝ドラ	14:00~14:30 本番
15:00 閉演	
11~15:00 高齢者(100名程度)参加の音楽会開催予定!	

申し込み: メールでの受付 ichigaya-vc@hosei.ac.jp
 メールで申し込みの際は「お名前」「お名前(フリガナ)」「お電話番号」「ご住所」「お申し込みの趣旨」を必ずお知らせください。
 問い合わせ: かがやきボランティアセンター
 TEL: 03-3264-9516 | Mail: ichigaya-vc@hosei.ac.jp



365日の紙飛行機 一緒に体を動かす



高齢者と音楽を通して楽しく交流しよう
ボランティアメンバー

34. 荒川区縁日大会～お祭り～ポッチャ体験会 (荒川区社会福祉協議会)

1. 日 程 2019年9月7日(土)
2. 場 所 荒川区ジョイフル三ノ輪商店街
3. 概 要

この催しには、荒川区社会福祉協議会の職員の方々が8名と実習生1名、法政大学からは学生ボランティアスタッフVSPの3名が参加しました。

縁日大会では、「ポッチャ風当てゲーム」を行いました。この当てゲームでは、パラリンピックの競技種目である「ポッチャ」を簡易化したルールが取り入れられており、小さい子どもでも簡単にポッチャのようなゲームを遊ぶことができます。普段はあまり見かけない多くの子ども達が一斉に集まり、「当てゲーム」のブースにもたくさん子ども達が来ていました。また、ポッチャについての説明を書いたボードも用意されていた為、来場された多くの方々にポッチャを知っていただく機会となりました。始めたばかりの頃は、ボールを投げるゲームであることや店の前のスペースを広くお借りするということもあり、商店街の方々は不服そうな顔で見られておりましたが、使えるスペースを教えてくださいたり、壁の塗装が剥がれて落下してしまった時に張り紙を作ってくださいたり、最終的には商店街の方々に協力いただくことができたおかげで成し遂げることができました。地域での大きな催しものは、地域の方々と協力してこそ成功させることができるのだと実感しました。

人間環境学部人間環境学科1年 荒巻 洋恵

4. 学生参加者数 3名

5. 参加学生の感想

休日ということもあり、親子で来場される方が多かった印象がありました。普段は仕事で忙しくて話す時間をあまり取れない保護者の方と子どもたちが楽しく過ごす時間になっていたとしたら嬉しいです。またこれをきっかけに地域の方々との交流が活発になれば、地域の中での「助け合い」も生まれてくるのではないかと感じます。このような機会があれば是非参加したいです。

文学部日本文学科2年 齋藤 真悠

このお祭りでは、ポッチャを体験してもらう企画をしました。来てくれた子どもたちにポッチャを教えたり、それ以外でも楽しく話せたり、このように地域の人たちと交流するのは初めてだったのでとてもいい機会でした。ジョイフル三ノ輪で行われたお祭りには多くの地元の方々が来場されていて、本当に地元の皆さんに愛されている祭りだと思いました。

文学部史学科2年 坪井 雄大



次々と参加者が集まる



的あての受付準備

35. 法政フェア

1. 日 程 2019年9月15日(日)
2. 場 所 外濠校舎1階メディアラウンジ
3. 概 要

東日本大震災の復興支援・防災啓発に取り組んでいるチーム・オレンジは、東日本大震災の被災地である東北のイメージアップのために、特徴的な4つのお祭りの紹介と福島米のおいしさ・安全性をアピールするパネル展示を実施したほか、防災について身近に楽しく学んでいただける防災カルタの体験をおこないました。

展示では、宮城県の「女川復興祭り」「仙台・青葉祭り」・福島県「相馬野馬追」・岩手県「宮古鮭まつり」を紹介しました。福島のお米展示では、おいしさの所以と安全への取り組みを紹介しました。

どちらも展示だけではなく、豆知識やクイズ・動画も利用したため、「知らなかった」「ためになった」といった声を頂き、東北のイメージアップができたかなと思います。

防災カルタでは、正解の札がとれたら拍手や「やったー!」といった歓声上がるなど、子どもから大人まで楽しく防災について学んでいただくことができました。

企画立案当初から、難しい内容をどうすれば楽しんでいただけるか、グループみんなで工夫を凝らしました。しかし当日は約4時間で延べ263名(展示:149名 カルタ:114名※各ブース来場者数)という非常に多くの方にご来場いただくなど大成功のうちにイベントを終了することができました。

チーム・オレンジ企画学生スタッフ 文学部地理学科3年 清水 遥貴

4. 学生参加者数 9名

5. 参加学生の感想

私達広報班は4月から法政フェアに向けて準備をしてきましたので、たくさんの方々にご来場いただけて嬉しかったです。特に、小さなお子さんが楽しそうに防災カルタやクイズに参加している姿が印象的でした。今回の展示を通して被災地に関心を持っていただけたら幸いです。

法学部政治学科1年 桐尾 奈菜

福島のお米の安全性や東北のお祭りをOB、OGだけでなく、小さいお子さん達にも楽しめる展示で伝えることで、皆さんにプラスのイメージを持っていただけたかと思います。また私自身も展示を作る過程で、ますます東北の魅力を感じることができました。

法学部国際政治学科1年 小林 都香

普段東北と関わりのある方にもない方にも、パネル展示を通じてお祭りやお米について知ってもらうことができ、良かったです。福島県からの来場者の方に「見ごたえのある展示だった」と言っていたことが特に感激でした。機会があれば、今回取り上げたお祭り(特に相馬野馬追)にも参加したいと思いました。

文学部地理学科3年 伊達 隼人



タイムテーブルを持ってブースを宣伝



チーム・オレンジの展示を見る来場者

36. 高円寺子ども食堂ボランティア

※p.23「高円寺こども食堂」も参照ください。

1. 日 程 2019年9月21日(土)

2. 場 所 高円寺子ども食堂

3. 概 要

最近「子ども食堂」という言葉はニュースなどでも頻りに聞くのではないかと思います。子ども食堂は、子どもたちやその保護者・ご高齢の方に食事を提供するだけでなく、地域の方とコミュニケーションをとることもできるので、人との繋がりを感じられる場所でもあります。また、現在全国に3,000か所以上あり場所によって様々な特色があります。

今回は以前から何度もお世話になっている高円寺子ども食堂に伺い、活動に参加させていただきました。午前中は食堂を開く準備のお手伝いをしました。受付や子どもたちが遊ぶおもちゃの配置などを行ったり、早く来た子どもたちとお話をしたりしました。

午後になると沢山の方が子ども食堂に訪れます。来られた方の受付や食器の後片付けを行うとともに、今回はパラスポーツのポッチャを子どもたちに体験してもらいました。子どもたちがポッチャを体験してとても楽しそうにしてくれていたのが、私たちも心が温くなりました。この体験をきっかけに、パラリンピックを身近に感じてくれる子が出てきてくれたら嬉しいです。

今回は約100名の方が食堂に足を運んでくださいました。とても忙しかったですが、子どもから大人まで多くの方の笑顔を見ることができたので参加して良かったと心から思いました。今後も継続的に子ども食堂での活動を行っていきたいと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部日本文学科2年 齋藤 真悠

4. 参加者の感想

私が目にした光景は沢山の親子と、地域の学生からおじいちゃんおばあちゃんがひとつの場所に集まり、みんなで大きなテーブルを囲んで賑やかにご飯を食べている姿でした。今回の体験を通して、パラリンピックの種目の一つであるポッチャを多くの方々に知ってもらい、興味を持ってもらうきっかけになったかと思っています。また、地域の方々が集まり、交流できる機会があることはとても大事なことでこの企画を通して感じました。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科1年 宇野 瑠奈

初めて訪れた子ども食堂は想像していたよりも賑わっていて、子どもたちや地域の方からボランティアで訪れた私たちがパワーをもらいました。私たちが企画したポッチャをたくさんの人に体験していただき、ポッチャがより多くの人に伝わればいいなと今回の活動を通して思いました。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科1年 高師 桜子



折り紙を教え合って一緒に楽しむ



ポッチャをしながら子どもと触れ合う

37. [キリン福祉財団助成事業] 2019年度東北被災地ボランティアツアー報告会

1. 日程 2019年9月23日（月・祝）

2. 場所 大内山校舎4階Y402教室

3. 概要

このボランティアは「チーム・オレンジ」が企画し、8月19日（月）～26日（月）の期間、2部4隊にわたり、NPO法人遠野山・里・暮らしネットワークの協力により実施しました。

今回は、東北被災地ボランティアツアーに参加した学生・教職員はもとより、参加できなかった一般学生の参加もあり、被災地支援ボランティアプログラムへの学生の関心の高さがうかがえました。

報告会は職員からの挨拶の後、概要説明、38隊から41隊の実施報告&感想、教職員からの感想・総括の構成でした。事前学習や、下見、現地スタッフとの細かい打ち合わせなどを学生が自主的に進め、ボランティアツアーの実施に至りました。

4. 学生参加者数 35名

5. 企画学生の感想

まず、今回の報告会は始まった瞬間から昨年、一昨年とは違うことを感じました。

各人から出た感想もそれぞれがしっかり考えたものになっていて、特に1年生や初参加の人達の感想は新鮮で聞いていて面白く、今後の活動にも生かせそうなものもありました。

意見の共有、そしてこれからの東北ボランティア支援活動の可能性を感じられた事が何よりも成果であり、同時に報告会の目的を達成することができたと思っています。

法学部政治学科3年 白川 直樹

改めてボランティアを振り返る機会があったことで、思い出す良いきっかけになりました。感想を言うために、この活動を通して何を感じたのかまとめることで自分の中で整理することができました。また、同じ活動をしていても違う感想を持った参加者の意見も聞くことができ良かったです。さらに、わたしとは全く違う活動をした方たちが何をして、どう感じたのかまで知ることができて、とても有意義な時間になりました。

文学部英文学科2年 中辻 佳菜

6. 参加学生の感想

～東北被災地ボランティアツアーに参加して（報告会での発表で）～

私が住んでいる地域は、震災時は停電が多かった地域だったので、大変だったのに、時間が経つにつれて思い出せなくなっています。また、現地に行く前に被災者を可哀想な対象として見ていた事が恥ずかしくなりました。行ってから持った感想は、ほんとに「自分ごと」だと思いました。また、ボランティア行ってから変化があったように感じ、家族にも「かわったんじゃない？」と言われました。防災意識が前と変わった事も感じています。そして、自分自身が未来にできる事がなにかあると考えるようになりました。



38次隊の発表～リーダーの白川さん



熱心に話を聞く参加者

38. チーム・オレンジ被災地支援オリジナルグッズ企画

1. 日程 2019年9月～11月
2. 場所 市ヶ谷ボランティアセンターなど

3. 概要

ボランティア学生スタッフ「チーム・オレンジ」が9月～11月にかけて被災地応援グッズを株式会社HUと共同して作成しました。今回の商品は、「えこびよんのエコバック」とチーム・オレンジオリジナルキャラクター「オーレ君、チーちゃんのポーチ」の2種類です。

エコバックが550円（税込み）、ポーチが880円（税込み）で12月中旬より一口坂校舎1階の法政大学オリジナルグッズショップ（WEBストアも開設中）、及びセブンイレブン法政大学市ヶ谷キャンパス店で販売を開始。1つの商品のご購入で20円を被災地に募金することができます。

エコバックは青とオレンジの2種類でえこびよんがデザインされており、使わない時は小さく収納できるようになっています。今後、レジ袋が有料化されるため、エコバックのニーズは非常に高くなるのでお勧めの商品です。

ポーチも形状や色がシンプルなデザインで、可愛いキャラクターをアクセントとして入れた使い勝手の良いポーチに仕上がりました。

4. 学生参加者数 2名

5. 販売数（3月末現在） エコバック173個、ポーチ24個
被災地への寄付9,640円（その他オリジナルグッズも含む）
※岩手・宮城・福島・熊本の4県に寄付しています。

6. 企画者の感想

震災から9年がたった今、震災の記憶も少しずつ薄れてきてしまっているように感じています。グッズを通し、チーム・オレンジの活動を知っていただき、被災地のことを考えるきっかけになってほしいと思います。売り上げの一部は被災地へ寄付されるので、沢山のの方にグッズを手にとっていただくことで、少しでも被災地に貢献することができたら嬉しいです。

法学部政治学科3年 三輪 窓佳

チーオレ広報班は法政フェアでの企画展示といった取り組みをしてきましたが、より多くの方に、東京にいながらも被災地の支援に繋がる企画ができないかと考え、今回のオリジナルグッズ（エコバック）製作企画に取り組みました。1個あたり20円の寄付と決して大きい額ではないのですが、少しでも被災地の発展に貢献できたらと思っています。

文学部地理学科3年 清水 遥貴

《購入者（ポーチを購入いただきました）の感想》

とてもかわいくてすぐに購入しました。中もポケットがついていて分けて物を入れられるので気に入りました。法政のグッズでポーチは初なので、いい着眼点だと思います。えこびよんに勝てるようにオーレ君、チーちゃんも頑張ってください。

法政大学卒業生



エコバックはオレンジとブルーの2色



グッズを手にするチーム・オレンジ企画メンバー

39. ユニバーサルシアターで学ぶバリアフリー映画

- 1. 日程 2019年10月2日(水)
- 2. 場所 北区田端シネマチュプキタバタ
- 3. 概要

ユニバーサルシアターとは、目の不自由な方、耳の不自由な方や車いすの方と共に映画鑑賞を楽しむために、車いすスペースやイヤホン音声ガイド、字幕付き上映を常時行うことで、バリアフリーな映画鑑賞をサポートしている映画館です。今回は日本初のユニバーサルシアターである CINEMA ChupkiTABATA（シネマチュプキタバタ）において企画を実施しました。始めに代表の平塚氏より、ユニバーサルシアターが町にできて感じてきたこと等を講演いただき、バリアフリー映画についての意義や理解を深めました。まず、はじめに「10年 Ten Years Japan」を鑑賞しました。実際に音声ガイドや字幕、バリアフリー映画館ならではの音響設備などを体験し、参加者は情景を想像する難しさや、その感性を味わいながら作品を鑑賞しました。代表の平塚氏が一つ一つの質問、感想に対して丁寧に答えている姿が印象的でした。また、質問、感想の内容から参加学生の関心の高さをうかがい知ることができました。

4. 学生参加者数 12名

5. 参加学生の感想

障がいのある方専用の映画館にしたい訳では無いという言葉が印象に残りました。音声ガイド、ユニバーサルシアターも特別なものではなく、当たり前にならなくていいものだと感じました。「十年」は、数々の社会問題について、他人事ではないという気持ちになる良い映画だったと思います。「美しい国」最後の音声ガイドは、目を閉じてみると役者の表情が伝わる良いガイドだなと思いました。

法律学部法律学科3年 上澤 優花

講師の方のお話でも「健常者も普通に利用できる垣根のないシアターにしたい」ということを言われていたので、映画作品の魅力によって実際にそのような流れが生まれているのかな、と感じました。私も垣根を取り払うことについて、周囲と共有していきたいと思います。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 坂田 菜摘



Chupki TABATA 平塚氏のお話



音声ガイドなどについて質問する

40. 手話講座 入門編(全8回)

1. 日程 2019年10月3日、10日、24日、11月7日、
14日、21日、28日、12月5日(全日木曜日)

2. 場所 大内山校舎5階 Y504 教室

3. 概要

NHK 手話ニュースキャスター中野 佐世子氏を講師に招き、自己紹介をはじめ、基本的なあいさつから、聴覚障がい者について、また障がい者に関する法規にも触れながら理解を深めました。テキスト「遊んで学べる手話ゲームブック」を基本に、手作りの教材も使用し、歌を交えて多くの手話表現を覚えました。講義を通じ、障がいのある方だけでなく、困っている方を見つけたら、何ができるか考えて、まず声をかけようという気持ちを持つことの重要性を知ることができました。

参加学生からも「ここで覚えた手話を、普通の生活や就職した後にも生かしていきたい」という声が聞かれました。

4. 学生参加者数 35名

5. 参加学生の感想

ドラッグストアでのアルバイトで耳が聞こえない方がご来店されたことがきっかけで参加させていただきました。新しい言語を学んでいるようで新鮮でした。また、障がい者についてやどのようにお手伝いをするのかということを講義で学び、驚く事や初めて知った事も多かったです。4年生でもうすぐ社会人となりますが、これから今回学んだ事を活かしていきたいです。

社会学部社会学科4年 杉浦 美優

私は、デフ・フットサルの日本代表選手として活躍する友人がいたことがきっかけで今回の手話講座に、参加させていただきました。彼は後天的な聴覚障害者だったので、口の動きを読み取って日々の会話はできていました。しかし、今回の手話講座で日常生活の中での大変な点をたくさん学び、もっと手話を練習して、彼と話したりできるようになりたいと思いました。

またどこかの手話センターでお会いできたらうれしいです。

文学部英文学科2年 大平 竜来

わかりやすく、丁寧で、楽しく学ぶことができたのでコミュニケーションの1つとしてもっとできるようになりたいし、自分がしている仕事で、告知する際の通訳としても使えるようになりたいと思っています。

もっとずっと長くてもいいかなって、知れば知るほどもっと学びたいと思える手話だったので毎週木曜日に学校行くこと楽しみにしていました。

法学部法律学科1年 藍原 由梨奈

市ヶ谷ボランティアセンター主催 ボランティアプログラム

手話講座

入門編

既文字の理解から始め、
あいさつや自己紹介など、
簡単な会話の段階までを学びます。
ぜひこの機会に手話にふれてみませんか？

10月3日(木)～全8回
10月3日、10日、24日、11月7日、14日、21日、
28日、12月5日 毎週木曜日に開講します。

時 間 : 16:50~18:30 (5限)
場 所 : 大内山校舎 Y504 教室 参加費: 無料
募集対象 : 本学学部生、教職員・定員40名 (定員に達し次第締め切り)
講 師 : NHK手話ニュースキャスター 中野 佐世子 氏
申込み方法 : メールでの申込み、または市ヶ谷ボランティアセンターにて申込書記入

申し込み・問い合わせ 市ヶ谷ボランティアセンター
tel. 03-3264-9516 Mail: ichigaya-vo@hosei.ac.jp



ペアになって覚えた手話で会話



8回の講座を終えて集合写真

41. 千代田区男女共同参画センター第7回 MIW 祭り ポッチャ体験教室

1. 日程 2019年10月5日(土)
2. 場所 千代田区役所 男女共同参画センターMIW(ミュウ)
3. 概要

MIW 祭りでは、学生が来年に迫る東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けたポッチャの体験会を行いました。

昨年にはこの「MIW 祭り」で、今年 5 月には「神田すずらん祭り」で体験会を行いました。そうした活動の効果もあり、今回はポッチャをご存じの方が多く来場されました。

6 月の打ち合わせ会から参加し、学生自ら千代田区や MIW の担当者さん方と調整を取り合いながら進めました。調整を進めることに学生も千代田区の方々と話す機会が増え、勉強になることや、MIW の活動を知るきっかけにも繋がりました。

ポッチャは、目標球に向かってボールを投げ、どれだけ近づけることができるかを競う、重度の脳性麻痺者のためにヨーロッパで考案されたパラリンピック正式種目です。今回の盛り上がりから、ポッチャに興味関心をもった方が多いのではないのでしょうか。

ボランティアセンター学生スタッフ(VSP) 法学部政治学科3年 藤山 雄多

4. 学生参加者数 4名

5. 参加学生の感想

高齢者から子どもまで様々な方が参加し、障がいをお持ちの方や年齢や問わず誰にでも楽しめる競技だと感じました。今回の活動では、そのような競技を知り、実際にプレイを体験したりと、私にとって新鮮で刺激的でした。今後、ポッチャのような競技の存在が広まり、「どんな人でも参加できる競技」に目を向ける人が広まって欲しいと思いました。

文学部心理学科1年 三代 莉里子

僕は MIW 祭りにも昨年参加し、千代田区のイベントでは何度もポッチャの体験会を実施しました。顔見知りも増えて、今ではイベントへ出向くごとに挨拶をしてくださる方がいらっしゃるほどです。こうした活動は東京 2020 を盛り上げるのはもちろん、地域と私達学生との関係を促進するのにも繋がっており、東京 2020 オリンピック・パラリンピックが終わった後も続けていきたいです。

法学部政治学科3年 藤山 雄多



来場者にポッチャを教える学生スタッフ



明治大学のボランティアスタッフとも交流

42. 外濠の環境をまもる～浚渫工事について知り 環境問題について学ぶ～(学生スタッフVSP企画)

※p.54「第10回外濠市民塾「外濠」浚渫工事見学会」の関連プログラムです。

1. 日程 2019年10月9日(水)
2. 場所 外濠校舎5階526会議室
3. 概要

市ヶ谷キャンパスの目の前にある外濠も東京2020オリンピック・パラリンピックをふまえ、浄化を求められています。本企画では、東京都内で外濠などの浚渫しゅんせつの実績がある小柳建設株式会社の方を講師としてお招きし、浚渫工事の概要や環境問題を理解した上でワークショップをおこないました。

前半の講義では、会社についてご説明いただき、外濠の河川に浮かんでいる土運船どろんせんが、浚渫に重要な役割を果たしていることを知ることができました。また河川に蓄積した土砂を取り除く時は、臭いが発生したり、生態系を壊さないように注意したり、周囲の環境に被害が及ばないように工夫や配慮がされていることを学びました。工事を行うことにより、洪水や悪臭、放射線を取り除くといった社会貢献や環境保護・改善にも繋がっていることへの知識を得ることができました。

後半のワークショップでは、①講義を受けての感想・質問 ②オリンピックで取り組むべき環境問題 ③浚渫のPRについてグループごとに話し合いをしました。各議題に対して、講義を聴く以前は「浚渫」という言葉の意味がわからなかったけれど、外濠で何が行われているのか知ることができた、身近な外濠の環境保護への意見として、ゴミの分別やエコバック、熱電球からLED電球への交換、浚渫工事前後の比較画像を掲示して効果を広める、過去の外濠の記録公開する、などといった考えが出ました。本企画を通して浚渫工事を身近に感じることができ、外濠を取り巻く環境問題について理解を深める場となりました。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 文学部地理学科1年 三村 優菜

4. 学生参加者数 33名

5. 企画学生の感想

ボランティアセンターの職員のみなさんや先輩方の助力、そして何より1年生メンバーとの協力によって、企画の成功に至ることができました。「浚渫」をきっかけに環境問題に対する意識が深まったのはもとより、多くの人と関わる機会を得られたことも、私にとって大きな経験となりました。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 経営学部経営学科1年 五味 祥紀

学生だけでなく、先生方を含むたくさんの参加者といっしょに環境問題や浚渫工事について考える良い場となりました。この企画を通して、河川における環境問題について、外濠という身近なところから学べてよかったです。

ボランティアセンター学生スタッフVSP デザイン工学部都市環境デザイン工学部1年 鴨 潤矢



小柳建設担当者様からの説明



グループワークでのまとめを発表

43. 車いすラグビーから学ぶ パラリンピック競技の魅力

1. 日程 2019年10月23日(水)

2. 場所 富士見坂体育館

3. 概要

車いすラグビーは東京2020大会パラリンピックの正式種目であり、車いすを激しくぶつかり合わせながら得点を重ねるスポーツです。今回は車いすラグビーを通して、障がいと多様性、パラスポーツについて学ぶことを目的としました。

まず、一般社団法人 日本車いすラグビー連盟 福井 正浩氏より、パラリンピックの歴史や、ご自身が車いすラグビー選手となるまでの経緯について伺いました。パラリンピックの父と称されたルートヴィヒ・グットマン氏の言葉「失ったものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ」が、障がい者と健常者の両方に向けられているというお話に、参加者は大きくうなずいていました。次に車いすラグビーを体験しました。安全な乗り方や方向転換の練習後、ルールなどを教えていただき、実際に試合を行いました。頑丈に作られた競技用車いすでタックルやパスに挑戦しながら競技を楽しみ、最後に、本学学生でもある車いすラグビー選手の牟田さんから、タックルを受ける体験を行いました。車いす同士がぶつかる衝撃は想像以上の迫力で大きな歓声があがりました。

パラスポーツは、多くの人が見たり体験することでより理解を深めることができます。パラリンピックが終わった後も多くの人に関心を持てるように、ボランティアセンターはこれからも様々なパラスポーツを紹介していきます。

4. 学生参加者数 17名

5. 参加学生の感想

私のいとこが水泳で2020年の東京パラリンピック出場を目指しており、少しでも力になりたいと感じていました。車いすラグビーはルールが明確で、初心者の壁がなく、男女混合で行われることも魅力の1つでした。障がい、初心者と経験者の、性別をも超えてしまう車いすラグビーこそ「ノーサイド」と言えるのかもかもしれません。パラリンピックについて考え、多くの刺激をもらい、自己成長に充てたいと思います。

社会学部社会学科4年 井上 拓

実際に車いすに乗ったり、ぶつかったりゲームをする体験ができ、とても楽しむことができました。動画を用いた説明が親しみやすく、わかりやすかったです。また福井さんが車いすラグビーを始めたきっかけや現在に至るまでの背景などを知る機会となり、興味深く感じました。できない事ではなく、できる事を見つけていく事の大切さを感じました。

人間環境学部人間環境学科1年 荒巻 洋恵



膝の上にボールを載せてゴールラインへ疾走



競技用車いすに乗って集合写真

44. 千代田区富士見わんぱくひろば 「わんぱくこどもまつり 2019」

1. 日程 2019年10月26日(土)
2. 場所 千代田区富士見わんぱくひろば

3. 概要

千代田区富士見わんぱくひろばの「わんぱくこどもまつり」は、毎年行われ、約700名の参加者がある地域児童館最大のイベントです。法政大学では、児童文化研究会とVSPスタッフのコラボ企画、大型絵本「たまごこんこんこん」の前にイラストで簡単なペープサートを作成し、手あそび歌「まあるいたまご」「手はおひざ」を行い、小さい子供たちを楽しませました。

パフォーマンスサークルすだまは、カードマジックや、ポールジャクリング、ヨーヨー、ディアボロ、シガーボックス、フローワンドなどのパフォーマンスを披露し、地下アリーナ舞台でこどもまつりに来た親子連れを魅了していました。また、一般応募した学生たちは、ハロウィン仮装パレードの交通案内、受付、子供の工作の補助、ゲームコーナー、フリーマーケットの準備などのボランティアをし、地域貢献活動の一助となりました。

4. 学生参加者数 23名

5. 企画学生の感想

手遊び歌のボランティアに関しては、良い経験をすることができました。また、職員さん方の対応がとても迅速で、どのように臨機応変に動くか良いのかを見て学ぶことができました。次の機会できっと活かすことができると思います。運営ボランティアでは、具体的な仕事が与えられておらず、自分で仕事を見つけることや、予定と違う進め方になっても臨機応変に対応していくことの大切さを感じました。

VSP 学生スタッフ 人間環境学部人間環境学科1年 荒巻 洋恵

6. 参加学生の感想

手遊びでは、最初は緊張や恥ずかしさがありましたが、一緒に歌ったり真似をしてくれる子どもたちの素直な反応がとても嬉しく自然と肩の力も抜け、楽しんでやり切ることができました。ウォークラリーでは、一生懸命自分の言葉でお友達にルール説明をする様子にとっても感心しました。子どもたちの持つエネルギーに圧倒されつつも、楽しんでいる子どもたちをみているところが元気をもらえました。

社会学部社会学科2年 吉田 悠乃



点数をチェックして景品と交換



VSP×児童文化研究会 手遊びうた

45. 食べ物を求めてます～フードドライブ(学祭) (キャンエコ&VSP学生スタッフ企画)

1. 日程 2019年11月1日(金)～4日(月)
2. 場所 富士見ゲート正面
3. 概要

自主法政祭では食べ物の管理や屋台企画で余った食材の廃棄が問題視されており、課題解決に向け、フードドライブを行ってきた市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)とキャンパス・エコロジー・フォーラム(キャンエコ)が協力して活動を進める運びとなりました。

自主法政祭開催日と同じ4日間連続で、正門前に専用の箱を設け、ご協力のお願いをしました。活動の運営はキャンエコが、食品の保管はVSPが中心に行い、4日間で多くご支援を受けることができました。お米やレトルト食品、缶詰など多くの食品、学祭期間中という事もあり、屋台企画で余分に発注してしまった食品も集まりました。

フードドライブは家庭で余っている食べ物を学校や職場などに持ち寄り、地域の福祉団体や施設、フードバンクなどに寄付する活動です。

日本にはなじみの薄い言葉ですが、フードバンク発祥の地、アメリカでは1960年代から盛んに行われています。今回集めた食べ物は、認定NPO法人であるセカンドハーベストジャパン様を通して全国の子ども食堂や病院に届けられます。来年度からはVSP、キャンエコ、学祭実行委員で進め、法政大学食品廃棄0を目指し活動を続けていく予定です。

VSP 企画学生スタッフ (VSP 代表) 法学部政治学科3年 藤山 雄多

4. 企画学生スタッフの感想

一昨年から始めたフードバンク系の企画、地道に活動を続けていく事で興味を持ってくれる方、そして実際に協力してくれる方が増え、多くの食べ物のご支援をいただくことができました。VSPは子ども食堂や児童福祉の企画も実施しており、今後は食べ物を集め、現場で人の口に入るまで一貫の企画も行っていきたいと思っています。

法学部政治学科3年 藤山 雄多

自主法政祭でフードドライブを企画したのは、昨年キャンパス・エコロジー・フォーラムとしてゴミの分別をしていた時に、新品の食品が捨てられていて、何かできないかと考えたからです。VSP、学祭実行委員会のご協力のもと初めての試みにしては、食品が集まり、嬉しく思います。しかし、まだ捨てるのにはもったいない食品はあったので、来年以降もフードロスが無くなるよう努力したいと思いました。

人間環境学部人間環境学科2年 本村 想悟



自主法政祭での回収の様子



法政祭期間中の活動としてはまずまず

46. 防災キャンプ(チーム・オレンジ学生スタッフ企画)

1. 日程 2019年11月9日(土)~10日(日)

2. 場所 外濠校舎1階メディアラウンジ

3. 概要

講師：宮崎賢哉氏(災害支援・防災教育コーディネーター)

参加者設定：参加者は当日「被災者」となる。マグニチュード7.3の首都直下型地震により震度6強の被害を受け、ライフラインは使えない状況で大学構内に滞留することとなった。

宿泊型の企画であるが、実際は被災を想定することは不可能であるため持ち物は「普段の持ち歩いているもの」のみで行う。

—1日目—

・オリエンテーション(1時間)

講師宮崎氏より避難所について、首都直下型地震が起きた時の想定について

・防災備蓄倉庫見学、並行してAED講習(1時間)

・班活動：寝床づくり、簡易トイレ体験、非常食による夕食(2時間)

班に分かれ、寝る場所を新聞紙・段ボールで作った。並行し簡易トイレをつくりお茶を流して体験、非常食の夕食を試食した。

・クロスロード、暗闇体験(1時間半)

カードゲーム形式の防災教材を用いて、災害時の判断を体験した。暗闇体験では光の刺さない空間の中でアイスブレイクを行い、電気がなくあかりがない空間のシミュレーションを行った。

・振り返り(30分)

暗闇の中で円状になり、1日を通して学んだことの共有を行った。

・就寝

避難所を想定し、実際に大学構内に新聞紙・段ボール・毛布のみで寝泊りした。

—2日目—

・各自準備(朝食・寝床等を各自片付け)

各班は自分たちで時間配分を考えて行動。空き時間に宮崎氏にロープワーク講座を行っていただいた。

・防災運動会(2時間)

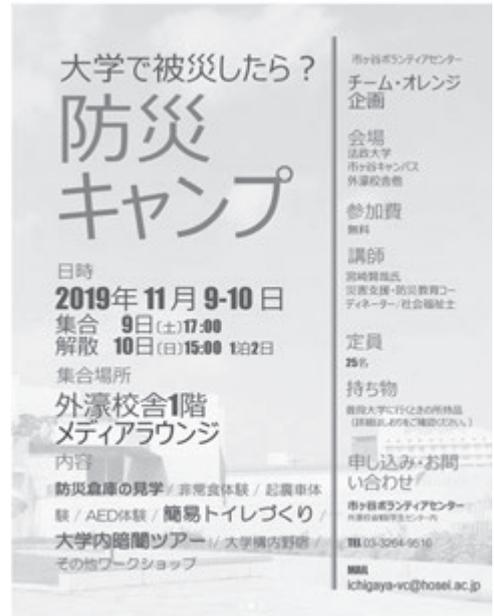
防災クイズ。防災グッズビンゴやバケツリレーなど、楽しみながら学べる企画を行った。大学内にある消火栓や消火器の位置もクイズ形式で確認した。

・振り返り(45分)

印象に残ったプログラムや防災キャンプに参加して自分の中でどういった変化があったのかなどを共有した。今後のことも見据えた振り返りをした。

・起震車体験(30分)

震度7までの揺れを体験し、地震の恐ろしさを実感した。



人間環境学部人間環境学科3年 小長井 愛

4. 学生参加者数 17名

5. 参加学生の感想

宮崎賢哉さんのお話では、災害の恐ろしさを改めて感じる事ができ、忘災から防災へという言葉は大切だと思いました。また、「頭ではわかっているけど体が動かない」という状態がどれほど恐ろしいものかを実感しました。

AED講習や倉庫見学は、大学に通っている日常だけでは経験できないので新鮮で、また学生として必要なことだと思いました。

クロスロードでは災害時の行動の取り方など、考えさせられることが多く、ためになりました。班員のみんで考えることで自分以外の答えを聞き広い視野の持ち方も学ぶことができました。

チームオレンジの皆さんや職員の皆様が考えてくれた今回の企画は、自分の経験値を高めてくれました。

いつ起こってもおかしくない災害に対して防災することの大切さや、人とのつながりの大切さなど、短い時間でしたが改めて感じることのできる企画でした。非常食もとても美味しく、班員のみんでお話するのとても楽しかったです！

またこのような機会があったら是非参加したいと思います！

法学部法律学科3年 宮崎 智子

宮崎さんのサバイバル道具を見せていただき、真の防災プロフェッショナルを目の当たりにし、刺激になりました。この企画の核はやはり、校内で寝ることの大変さを肌で感じられたことだと思います。知り合いがいる中でコミュニケーションをとりやすいが、寝るときだけは班分けされたこともあって、避難所の再現に少し近づいていたように感じました。

社会学部社会学科4年 佐々木 敦史

遠野ボランティアをきっかけに防災への意識が高まったところに、今回の企画を行うと聞き、身近な防災について学べて企画に携われると思い参加しました。

暗闇体験、普段食べる機会のない防災食を食べられた点が良かったです。教えていただいた防災知識は知らないことも多く、学べることばかりで、自分が行った企画を参加者が楽しそうにやってくれたことが印象に残っています。

このような企画にチーム・オレンジメンバーだけではなく、もっと学内からの参加者も増えてほしいと思いました。

デザイン工学部都市環境デザイン工学科1年 島田 知樹



班別にクロスロードを行っている様子



防災備蓄倉庫を見学している様子



ロープワークを教わり体験



学生スタッフ作成のしおり

47. それぞれの色で輝ける社会、考えてみませんか？ ～性的マイノリティについて考える(学生スタッフVSP企画)

1. 日程 2019年11月14日(木)

2. 場所 外濠校舎5階 526 会議室

3. 概要

2020 東京オリンピックを迎え、多様化への理解が重要となります。本企画では、性的マイノリティの観点から、正しい知識や適切な行動など学び、他者に対して多様な理解を持ち、接することを目指し企画しました。マイノリティについて考えるのは、コミュニケーションをとる私たちにとって、重要なテーマです。

前半は、本学でジェンダーやセクシュアリティに関する「クィア・スタディーズ」を開講している国際文化学部専任講師の岩川ありさ先生に講義をしていただきました。マイノリティについて正しい知識を身に着ける大切さ、無意識にもジェンダーやセクシュアリティから遠ざかってしまっている現状、また、性的マイノリティに関する歴史について学びました。

後半のワークショップでは、クイズ形式で、企業の取り組みや、レインボーフラッグについて学びました。その後、ジェンダーに関するストーリーについてグループでワークショップをしました。班ごとに意見が違い、より深く性的マイノリティについて考えるきっかけになりました。今回の企画を通して、多様性について理解しようという気持ちや、ジェンダーやセクシュアリティについて考えるきっかけとなり、自由な意思を持った生き方ができるヒントとなれば嬉しいです。

ボランティアセンター学生スタッフ (VSP)
キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科3年 八木 里菜

4. 学生参加者数 14名

5. 企画学生の感想

企画に関ったこの4~5ヶ月で様々な事に気づけました。性的マイノリティを軸に多様性を知り、他者理解をするという企画でしたが、自己理解にも繋がると感じています。

このような機会がないと気づけなかったことがたくさんありました。ここで学んだ経験を実生活の中でも生かしたいと思います。
キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科3年 八木 里菜

6. 参加学生の感想

驚きの事実がたくさんありました。LGBT を特別扱いする世の中ではなく、当たり前で生活できる、無意識に対応できる世の中にしていこうと、1人1人が思うようにならないといけないと思いました。
経営学部市場経営学科1年

LGBTs をどう定義するか、性的マイノリティがいかに生きていくべきかを知りたいと思った。マジョリティとマイノリティの間に境目があるということを感じる中、性の在り方をわからないと自分や他人を傷つける事にもつながるので、それぞれの意識の
変革が必要だと思えます。
文学部日本文学科3年





岩川先生の講義



クイズ形式ワークショップ



熱心に講義を聞き考える



ワークショップで班ごとの発表

48. 2019 年度中国大学生友好交流訪日団 「環境・防災セミナー」プレゼンテーション

1. 日 程 2019 年 11 月 24 日 (日)

2. 場 所 港区 AP 浜松町

3. 概 要

公益社団法人青年海外協力協会 (JOCA) が主催する 2019 年度中国大学生友好交流訪日団「環境・防災セミナー」にて、中国人学生約 200 名に対し、チーム・オレンジが行っている災害復興支援事例及び、防災啓発活動のプレゼンテーションを行いました。その後中国人学生と共に、防災ゲーム「なますの学校」に参加し、交流を深めました。

海外の学生に自分たちの活動を伝える機会は初めてで不安でしたが、参加者は災害復興支援や防災啓発活動の紹介について熱心に聞いてくださいました。またその話を聞いて「日本の防災に対する意識の高さを感じ、改めて防災について考えさせられました。」というような嬉しいお言葉もいただきました。

このイベントには、中央大学の「チーム防災」さんや、青山学院大学の「Roote」さんも参加していました。同じように防災関連の活動をしている団体の活動内容や考え方について知る機会にもなり、今回得たことをこれからの活動で活かしたいと思いました。

これからもこのような広報活動に参加して、被災地支援や防災啓発活動の輪を広げていきたいと感じました。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科 2 年 高木 祐輔

4. 学生参加者数 3 名

5. 参加学生の感想

今回この企画に参加させていただき、中国の学生さんの熱心さを見ることができ、とても感心しました。また休憩時間に日本語で話しかけてくれる学生さんもいて、少しだけでしたが交流する時間もあって良かったです。ふだん海外の学生さんと関わる機会はないので、すごく良い機会になりました。

文学部史学科 2 年 上條 開

「なますの学校」という防災ゲームを中国からきた学生の方々と一緒に体験できたのはとても良い経験になりました。中国の学生の方たちはとてもフレンドリーに接してくださったのでリラックスして臨めました。

文学部英文学科 2 年 中辻 佳菜



チーム・オレンジの防災啓発に関するプレゼン



200 名の中国からの学生を前に登壇

49. チーム・オレンジ学生スタッフが教える 秋学期防災訓練

1. 日 程 2019年11月28日(木)

2. 場 所 外濠校舎5階526会議室

3. 概 要

11月28日(木)にボランティアセンター学生スタッフ、チーム・オレンジ10名と法政大学職員23名が秋学期防災訓練を行いました。第1部に避難所運営ゲーム、第2部に防災クイズカルタを行い、防災意識を高める機会となりました。

第1部に行った避難所運営ゲームとは避難所の運営を任された者の立場になり次々に訪れる避難者やハプニングに迅速かつ適切に対応していくゲームです。目的はいざという時に備え、想定内のことを増やし避難所で起こりうることを理解することです。長丁場になるゲームなので、チーム・オレンジが防災訓練前日までにリハーサルとして避難所運営ゲームを途中まで進め、その続きを大学職員の方と行いました。避難者の要望にどのように対応するか、最善の答えをそれぞれが考えるきっかけになったと思います。また、今回の防災訓練の反省から避難所運営ゲームを簡易的にプレイする方法をチーム・オレンジで話し合い、次年度に活かしたいと考えました。

第2部で行った防災クイズカルタは、楽しく簡単に防災知識が身につけられるようにとチーム・オレンジが制作したものです。参加して下さった職員の方にも、ルールや問題が分かりやすかったと感じてもらえ、非常時に役立つ知識を共有することができました。また、印象に残ったと言っていた問題は、他の防災クイズカルタを使ったイベントでも重点的に扱っていただければと考えています。

今回の秋学期防災訓練では、災害が起きたら自分はどのように行動すべきか深く考えることができました。同時にチーム・オレンジが、普段どのような防災啓発活動をしているのか職員の方に知ってもらったいい機会だったと思います。

私たちが日常的に生活を送っていくなかで防災について考える機会は少ないと思います。今回の防災訓練を通し、防災について「意識」を高めることができたら意義のある活動であったと思います。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 高木 祐輔

多くの職員の方に参加していただき、楽しく防災の知識を知っていただけたので良かったです。また、職員の方々は実際に災害時に避難所を運営する立場になるかもしれないので、その点今回の避難所運営ゲームはとても意味のあるものだったと思います。

文学部心理学科1年 加藤 咲



防災カルタのカードを説明しながら配置



職員と一緒に避難所を想定してカードを配置していく

50. 日本で暮らす外国人のサポートについて考えよう

※p.36「北区学び場 Let's Study」の活動より学生が企画したプログラムです。

1. 日程 2019年11月28日(木)

2. 場所 外濠校舎5階526会議室

3. 概要

VSP企画学生スタッフから、今回の企画のきっかけでもあるボランティアの活動を説明させていただき、プログラムでは、聖心女子大学非常勤講師であり在留外国人への支援をされている加藤丈太郎氏に講義をしていただき、その後ワークショップを行いました。

講義ではまず、在留外国人の人々の国籍や訪日の目的、在留資格などについての説明の後、日本の外国人の受け入れ態勢が、十分に整備されていない現状を紹介していただきました。加藤氏は、技能実習生等の、事実上の労働移民の不安定な労働環境や、外国人にばかり日本社会への適応を求め、日本人が外国人を積極的に受け入れようとしていない問題を、分かりやすく説明くださいました。この講義の主な目的は、在留外国人の人々の実情と、日本社会が抱える問題点について、参加者の方々に認識してもらうことでした。

続いて、ワークショップを実施しました。初めに、企画学生スタッフが選んだ法務省の人権啓発ビデオを視聴後、日本人と外国人との間で偏見と誤解からトラブルが発生する事例を、映像を通して理解していただきました。その後、問題を解決する方法を、ワークシートや資料を用いて考え、各グループの1名に解決案の発表をしてもらいました。そして、加藤氏から外国人の人々との共生の方法についてお話いただき本企画を終了致しました。

本企画を通じて、外国人の人々との間で、良好な関係を築く方法について、参加者の方々に考えていただき、最終的には自らボランティア活動等を通して、「多文化社会」の実現に向け、活動するきっかけを生み出すことができたのではないかと考えております。

学生スタッフ VSP 法学部国際政治学科3年 正田 一成

4. 学生参加者数 27名

5. 参加学生の感想

普段、同世代の学生と意見を交換したり、外国の方の意見を実際に聞く機会が少ないので、ワークショップも有意義な時間になりました。私は親が中国出身で、やはり外国人だからと言われ大卒にまとめられて見られたり、(行いの悪い人を例に挙げて)日本人ではないからと雑に扱われたりという経験をした事をよく聞いています。1人で偏見を持たずに接することは小さい1歩なのかもしれないけれど、その1歩が心に届いてくれば大きな事になるのではないかと、また、それについて考える事も大切であるという事を今回のプログラムでとても強く感じました。実際に行動している企業や、学生の意見も聞けたので今後の参考にしていこうと思います。

経済学部現代ビジネス学科3年



移民の問題について熱くグループでディスカッション



学生スタッフが日本語を教えるボランティアを紹介

51. 2019年度災害等復興支援ボランティア活動に伴う交通費助成金

1. 日程 2019年12月1日(日)~2020年2月28日(金)

2. 概要

本学ボランティアセンターは12月に「災害等復興支援ボランティア活動に伴う交通費助成金」の制度を制定しました。

本制度は、近年多発する自然災害に対して、学生ボランティアの現地派遣の促進を目的としており、日本列島に深刻な被害をもたらした令和元年房総半島台風(19年の台風15号)と令和元年東日本台風(同年の台風19号)にあわせて制定されました。

本制度は災害救助法の適用地域とその近隣地域での復興支援活動を行った学生に対して、ボランティアの際に発生した交通費及びボランティア保険料に対して年間1万円を上限として助成する制度となっています。

運用初年度となる2019年度に関しては、東日本大震災に関するボランティア活動で5名、令和元年東日本台風に関するボランティア活動に対して5名の学生に本助成制度を適用し、計78,930円の補助を行いました。

市ヶ谷ボランティアセンターはこの助成金の制度を2020年度以降も継続的に実施して、万が一日本が災害に見舞われた際に本学学生が社会の一員としてボランティア活動に参加することを後押ししていきたいと思っております。

3. 助成金支給実績 10名

4. ボランティア活動後の学生の感想

同じ日本国内で被害を受けている地域があるにも関わらず、安全な場所にいたからと無関心でいていいのだろうか。その違和感から今回被災地支援に参加した。台風19号による被災地として特にいわき市は阿武隈川とその支流での破堤が起き、特に被害が多かったと聞いていた。実際訪ねてみると区によっては街の復旧がほぼ終わっていたり、被害が多かった地区へ支援が偏っていたりと、想像とは異なる現状であり、実際に行ってみてわかることと、行動する大切さを学んだ。

私は炊き出しと、ピラのポスティングを行った。被災地支援というと特別なスキルが必要のように感じるが、実際はそんなことはない。自然災害を止めることは難しいが支援は誰でもできる。災害大国と呼ばれる日本で自分ができることは何か改めて考えなおしたい。

文学部心理学科1年 青木 怜奈

私は台風19号の被災地支援活動に参加した際に災害等復興支援ボランティア活動に伴う助成金をいただきました。学生だけの力で離れた地域で行われる活動に参加することはなかなか難しいため、このような機会をいただけてとても感謝しています。

支援を求めている地域に対してボランティアをしたくても金銭的事情等で諦めざるを得ない人達が、助成金のおかげで少しでも多く支援活動に協力できる社会になれば良いと思います。

デザイン工学部都市環境デザイン学科1年 鴨 潤也

5. 2019年度 災害等復興支援ボランティア活動に伴う交通費助成金 告知ホームページ

https://www.hosei.ac.jp/volunteer/NEWS/zaigaku/191121_01/



52. [教プロ×VSP共同企画] お寺をきれいについてに心も

1. 日程 2019年12月7日(土)
2. 場所 新宿区起雲山大龍寺
3. 概要

清掃活動は、お寺の外と中の2組に分かれて行いました。外では通路だけでなく、お墓のまわりに落ちていた葉っぱを箒で丁寧に集めました。また、お堂の畳を雑巾がけをする、という貴重な体験をさせていただきました。

次に、住職である太田賢孝氏から坐禅の姿勢・体の軸の取り方を学び、坐禅体験へと移りました。時間を忘れ、何も考えずにただ座っている、ということあまり日常生活においてなかなかする機会がなかったため、無の境地から自分の心を改めて見つめ直すことができたようにも感じました。

坐禅が終わった後、住職の方から「ボランティア」というものについて、小さなものを積み重ねて、他の人への感謝の念を伝えていくことであると、話していただきました。その後、5グループに分かれて「ボランティアとは何か、自分が参加してみたいボランティアはあるか」について議論し、義務ではなく自分のやりたいことをするべき、またこういった清掃活動があれば参加してみたい、という意見があり、全体で共有し、考えを深めていきました。



最後に「キャリアとは何か」というお話を頂き、相手と競争するばかりでなく、一度自分というものを見つめ直し、他人にとらわれないで、自分の興味を持ったことにチャレンジしてみたい、というお話をさせていただきました。

今回の清掃活動・坐禅体験そして法話は普段できないもので、この体験から自分の中に新たな発見と成長ができたのではと思います。

法学部法律学科1年 清宮 幹太

4. 参加学生の感想

坐禅の目的で参加しました。だからこそボランティアだと構えずに気軽に参加でき、また、法話などからボランティア精神などについても考えることができ、初心者として取り組みやすいものでした。

ボランティアとは、何かを犠牲にして行うもの、という印象がありましたが、得るものばかりで、貴重な体験ができました。

法学部政治学科4年 黒川 杏奈

坐禅はとても貴重な体験となり、参加してよかったなと感じました。清掃は、お墓や畳がきれいになると、心が落ち着き、新年に向けて自分の家の回りも掃除しようと思いました。グループワークでは自分がいかに受け身であるかを実感させられましたが、なぜ「どんなボランティアをしたいか」というテーマなのかを少し説明していただけたらと思いました。

法学部政治学科2年 高橋 克典



身体を揺らして自分の「軸」を探す



清掃活動の風景

53. 福島被災地スタディーツアー (チーム・オレンジ学生スタッフ企画)

- 1. 日程 2019年12月8日(日)
- 2. 場所 福島県いわき市、相双地区など
- 3. 概要

本企画は、チーム・オレンジだけではなく被災地に初めて訪れる一般学生を主なターゲットとし、福島県の被災状況や復興に向けた取り組みを学ぶことに加え、「仕事を通して見た震災～変化を知る～」をスローガン・目標としたスタディーツアーを企画しました。

アクアマリンふくしまでは、映像を通して講話を聞き、福島県いわき市の被災当時の状況や被害状況を教えていただき、実際にその場所に足を運ぶことによって津波の被害の大きさを肌で感じることができました。物資やエネルギーの問題により、水族館の生物の命の選別をしなければならなかったという話は生々しく、当時のスタッフの苦悩を感じました。

その後、ふくしま観光復興支援センターの小磯氏のガイドによる相双地区の視察を行いました。実際に原子力発電所のある双葉町、大熊町を巡り、震災によって引き起こされた二次被害の状況を目の当たりにし、いま我々にできることを考えさせられました。また、被災当時の住民、原子力発電所の事故による生活圏の変化、その後の復興状況について、元新聞記者、現地に住む人としての視点で話していただきました。

今回のツアーでも現地での視察、講話を通して震災の記憶を共有し、風化防止、防災意識の向上に結びつけることができました。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科 高木 祐輔

帰宅困難地域の家や畑、道路の様子を実際に見ることができたのが良い経験になりました。未だにガラスが割れていたり、家具が倒れている店や家を見てかなりの衝撃を受けました。

被災地のことはその現場を見ないと理解できないと感じました。「震災からもう8年も経ったのだから」と考えていましたが、復興はまだ終わっていないのだと、今までの考え方を見直すきっかけになりました。

文学部日本文学科 2年

アクアマリン福島で、水族館の職員という立場から見た震災は気づきが多かったです。

エネルギーが限られている中、どの動物を優先的に助けるか判断を下さざるを得なかった職員の心情を思うと心が痛みました。相双地区で、帰宅困難地域を実際に見ると、人の気配が感じられず、不気味でした。道路や建物などはあり、町の形はあるのに、人がいないだけで、こんなにもすたれてしまうのだなと思いました。

法学部法律学科 1年



ガイドを聞きながら被災地を回る



集合写真

54. (東京メトロ飯田橋駅ボランティア企画) 目の不自由な方のサポートについて学ぼう

※p.27「東京メトロ飯田橋駅ボランティア」、p.38「2019年度東京メトロ飯田橋駅ボランティア研修会」は関連プログラムです。

1. 日程 2019年12月11日(水)

2. 場所 外濠校舎5階526会議室

3. 概要

東京メトロ飯田橋駅ボランティア学生スタッフ企画プログラムで、日本視覚障害者団体連合の三宅隆氏、東京地下鉄株式会社(東京メトロ)社員の方々をお招きし、前半は講演・質疑応答、後半は体験を行いました。

前半の講演では、「視覚障がい」といっても人によって異なる多様な見え方があること、また様々な状況における〈ベストなサポート〉について学びました。正面または斜め横からの声掛け、立ち位置など、あらゆるサポートの可能性があることがわかりました。活動拠点の「公共交通機関」については、施設面でのバリアフリーの現状について本音も交えたお話を伺うことができました。

日本は、海外に比べハード面のバリアフリーが進んでいるといえます。海外の駅はソフト面が既に構築されている——どんな状況下でも街の人々が助けてくれる環境にあり、設備面の遅れはその頭れである、ということは印象に残りました。

我々のボランティア活動はごく小さなものにすぎませんが、この場所からまた1歩ずつ、日ごろの活動に勤しみたいと心に決める1日となりました。

4. 学生参加者数 7名

5. 参加学生の感想

視覚障がいの方からの生の声は聞く機会がなかったため、とても貴重な体験になり、サポートをする上で気をつけるポイントなどを知ることができました。特に、駅で鳴っている音、鳥の声などは、何のためにあるのか気にはなったことがあったが知らなかったため、今回、階段やエスカレーターがあることを知らせるもの、場所を知らせるものであることが分かり、そういうことを意識して聞いてみたいと思います。今回学んだことを今後の活動や生活の中で生かしていきたいです。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 増倉 健太

この企画に参加して、視覚障がい者の方への見方が大きく変わりました。視覚障がいにも様々なタイプの方がいること、白杖や盲導犬の役割、駅構内での盲導鈴の役割、実際にご案内する時にすべきこと、してはいけないこと等、目からウロコの知識ばかりでした。実際にご案内体験もさせていただき、視覚障がい者の方のご案内方法も身に付けることができました。この貴重な経験を駅ボランティアや日常生活の中で視覚障がい者の方に出会った時に活かそうと思います。

法学部法律学科2年 福地 寿希

目が見えない方のサポートについて学ぼう
～みんなが安心できる社会に～

東京メトロ飯田橋駅ボランティア企画プログラム
12月11日(水) 16:50~18:30
外濠校舎5階526会議室

講師：社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合 三宅 隆氏
参加費：無料 定員：本学学生10名
キャンセル料ありです。

「目が見えない方の声」を聞き、サポートの大切さを知ることができました。

視覚障がいについて、日本視覚障害者団体連合の三宅さんからの講演を聞き、一緒に歩いていただきながら、目が見えない方に対するサポートを学びました。公共交通機関におけるバリアフリー施設や、目の不自由な方への声掛けなど、実際に目が見えない方からの声掛けを受けることができました。必死に頑張る目が見えない方の声は本当に感動的でした。

市ヶ谷ボランティアセンター tel. 03-3264-9516
申し込み mail: ichigayavo-apply@ml.hosei.ac.jp
問い合わせ mail: ichigayavo@hosei.ac.jp

文学部日本文学科2年 田中 康太



ペアになって学内施設にて体験



講義終了後、集合写真

55. 廃油石鹸づくりを通してリサイクルを学ぼう！ (学生スタッフVSP企画)

1. 日程 2019年12月15日(日)

2. 場所 荒川区 吉まぐれ屋

3. 概要

荒川区居場所ネットワークのバイタルプロジェクトのイベントの一環として、「リサイクルの大切さ、及びゴミ問題について考える機会、学校の教科とは異なる学びを提供する」、「居場所ネットワークに通う子ども達に学ぶことの楽しさを知ってもらおう」ことを目的に、企画しました。ボランティア学生スタッフ8名(うち企画者3名)、荒川区居場所ネットワークに通う小・中学生5名が参加しました。

前半はアイスブレイクで話しやすい状態を作り、「ゴミが増え続けるとどうなるか」「4Rとは」についての話をしました。資料を準備したり、問いかかけを多くしたので、楽しんでもらえたと思います。

後半は廃油石鹸づくりをしました。材料をペットボトルに入れて混ぜるのですが、その際の間隙時間で環境問題対策に関するクイズを出題したり、自分が普段行っている環境保全活動を考えてもらったことで、子ども達にも主体的にまた活発に取り組んでもらえたのではと思います。

企画後、バイタルプロジェクトの方から「今後もいろんな企画を実施してほしいし、学生がやりたい企画に協力したい」と言ってくれたので、今後の活動にもつながる良い企画になったと感じています。

このような取り組みを継続して行いたいと思います。

文学部哲学科2年 佐久間 喜望

4. 学生参加者数 7名

5. 参加学生の感想

はじめての企画で、周りの人に助けをもらいながら行うことができました。子ども達の年齢層が広くて内容を考えるのが難しかったです。皆さんが積極的に参加してくれ、「楽しみながら学ぶ」という目標を達成できたのではないかと思います。今後、石鹸の形も変えるということもできたらいいなと思います。

人間環境学部人間環境学科 1年 阿波加 夏輝

子ども達にリサイクルの問題を、廃油を使って石鹸を作ることで学んでもらえたことは、とても良い経験になりました。子ども達と楽しい時間を過ごし、ボランティアの楽しさを改めて実感しました。最後に別れを惜しんでくれた子どもの姿は忘れられない思い出になりました。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科1年 宇野 瑠奈



リサイクルについて説明



子どもと一緒に石鹸作り

56. 高円寺子ども食堂クリスマス会で子どもと遊ぼう (学生スタッフVSP企画)

1. 日 程 2019年12月21日(土)

2. 場 所 高円寺子ども食堂

3. 概 要

運営のお手伝いとして、まず会場の用意をしました。机を拭いたり、子どもたちが遊ぶことのできるおもちゃを用意したり、飾り付けをしたりと、子ども食堂の方々と法政大学から、また他校からの参加者が協力して行いました。用意が終わると、利用者が集まり始める13時頃までの間に、自己紹介やお話しなどをすることで、参加者同士の交流も深まりました。

クリスマス会が始まると、それぞれの役割を務めました。利用者のリストやお金などを管理する受付係、料理を配膳する係などがあり、その他にもピアノを演奏したり、子どもたちと遊んだりお話ししたりと、利用者の方々と交流する機会も多くありました。会の途中では、参加者一同でピアノの伴奏に合わせてクリスマスソングを歌いました。また、子ども食堂からクリスマスブレゼントが用意され、利用者が楽しんでいただける工夫が凝らされていました。終了後、ボランティア全員で美味しい食事をいただきました。一同で協力して片付けを行い、活動を終わりました。普段の子ども食堂とは一味違った楽しさを味わうことができたのではないかと思います。

人間環境学部人間環境学科1年 荒巻 洋恵

4. 学生参加者数 8名

5. 参加学生の感想

今回ボランティアをしようと思ったきっかけは、社会政策について勉強する中で、子ども食堂に関して聞くことがあり、どういったものなのかを目で見て知りたいと思ったからです。

子どもたちは元気いっぱい、自然と僕のほうまで笑顔になりました。机の上で福祉について学ぶ以上に貴重な経験をさせてもらえました。本当に今回ボランティアに参加させていただいて良かったです。

経済学部経済学科3年 小笠原 勇氣

私自身、中学校や高校で教育支援のボランティアをしています。子ども食堂で幼児や小学生を相手に活動をした事がなかったので、はじめは緊張しました。しかし施設の方から指示をいただいたり、他の方々と協力しながら、よい緊張感を保ちつつ楽しく参加できました。来てくださった子どもや保護者の方々にも楽しんでもらえて嬉しいです。また機会があれば是非参加したいです。

文学部英文学科4年 今野 創太



ピアノに興味深々の子ども達と演奏



受付で来場者にチケットを渡す

57. サンタクロースプロジェクト (荒川区社会福祉協議会主催)

1. 日程 2019年12月15日(日) 荒川区 汐入おもちゃ図書館
2. 場所 24日(火) 荒川区 あらかわおもちゃ図書館
25日(水) 荒川区 おぐ銀座おもちゃ図書館

3. 概要

サンタクロースプロジェクトは、荒川区社会福祉協議会の職員の方を中心としたメンバーで構成された、荒川区を元気にする活動の1つとして、クリスマスの時期に子どもたちや保護者に楽しんでもらおうという企画です。

10月頃に最初のミーティングを行い、企画の説明を受け、班に分かれて実施日までの準備をしました。各班はそれぞれの場所に合わせて、自分たちができることを模索して準備を進めていきました。

私たちの班は、「子どもたちと一緒に曲に合わせて踊りを踊る」という内容になりました。そのために、週2日ほど集まって、部屋の飾り付け用の装飾を作ったり、踊りの練習や準備をしました。そして、本番を迎えました。とても緊張していて、また、子どもたちは楽しんでくれるか心配でしたが、終わってみれば子どもたちも保護者の方々も笑顔で、終わるころには子どもたちとも仲良くなれて、とても楽しく終われました。他の班も工夫しながら、無事大成功で終わることができました。

この企画を通じて、荒川区の方々、社会福祉協議会の職員の方、他大の学生など、いろいろな人たちと関わることができ、協力して企画を進める大切さを知ることができました。これからのボランティア活動に活かせる、とてもいい体験でした。

学生スタッフ VSP 文学部史学科2年 坪井 雄大

4. 学生参加者数 6名

5. 企画学生スタッフの感想

今回初めて1から作る企画に参加しました。前例がないものでどうやったらいいか考えて取り組んだため、前回参加したものと違う達成感を得ることができました。

当日は自分たちが考えたもので子供たちが楽しんでくれる様子を見ることができました。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科1年 高師 桜子

荒川区おぐぎんざおもちゃ図書館では、まだお話ができにくいくらいのお小さなお子さんが多かった為、手遊びやマラカスをを使った演奏、サンタ体操をして盛り上がりました。

30分間の中で何ができるかを班のみんなで1から考え、沢山の案の中で最終的に意見をまとめるといった一連の企画にやりがいを感じました。また、企画の内容がそれぞれのおもちゃ図書館ごとに違うところが面白く、考えさせられました。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科1年 宇野 瑠奈



サンタクロースになり子どもたちを楽しませる(12/24)



荒川サンタクロースプロジェクトのメンバーと(12/15)